



大学の基本的な目標

## 三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～人と自然の調和・共生の中で～

### 基本理念(国際化)

三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに  
国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す。



●三重大学国際交流ホームページ  
(<https://www.mie-u.ac.jp/international/>)

発行/令和8(2026)年3月  
国立大学法人 三重大学  
問合わせ先/国際戦略チーム  
〒514-8507 津市栗真町屋町 1577  
TEL 059-231-9804  
FAX 059-231-5692  
E-mail [koryu@ab.mie-u.ac.jp](mailto:koryu@ab.mie-u.ac.jp)  
ホームページ <https://www.mie-u.ac.jp/international/>  
印刷/伊藤印刷株式会社

# 目次

## Contents

巻頭言 理事（グローバル化担当）・国際戦略機構長  
2024年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

### I. 三重大学における国際化および国際交流

1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置	03
(1) グローバルな視点を持った国際的に活躍できる人材を育成	03
(2) 留学生寄宿舎の整備・留学相談体制を充実させ、安心して学べる環境提供する	03
2. 協定大学との主な国際交流活動	04
(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム	04
(2) ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学、パジャジャラン大学・インドネシア）	04
3. 国際交流事業の経費助成	04
(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度	04
(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ	05
(3) 外国人研究者受入れ	06

### II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 全学共通教育センター	07
(1) 国際理解実践1：シェフィールド大学国際理解研修	07
2. 人文学部・人文社会科学研究科	09
(1) 2024年度スリランカ短期研修に関する報告	09
(2) 2024年度留学生交流会の報告	12
3. 教育学部・教育学研究科	12
(1) 令和6年度「海外教育実地研究B」（教育学部・学部共通開講科目）の実施	12
(2) ホーチミン市師範大学との連携による科学人材の育成と交流を目的とした理科研修プログラム	13
(3) オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	13
4. 医学部・医学系研究科	14
(1) 海外臨床実習医学部生の交換	14
(2) 国立大学病院長会議将来像実現化WG国際化担当者会議の参加	19
(3) 三重県国際交流財団への講師依頼協力	19
(4) カジェタノ・エレディア大学（ペルー）本学医学部表敬訪問10月10日	19
(5) 三重大学グローバルアンバサダー更新	20
(6) ザンビアマイクロサージャリートレーニングセンター開所式開催2024年6月19日	20
5. 工学部・工学研究科	21
(1) ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツイニング・プログラムの実施（継続令和6年度）	21
(2) 海外短期インターンシップ	22
6. 生物資源学部・生物資源学研究科	23
(1) 各種JICA教育プログラムの実施	23
(2) インドネシアのパジャジャラン大学（UNPAD）からの講師の受入・スリウィジャヤ大学（UNSRI）への講師の派遣	23

(3) 「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」による留学生の受入	24
(4) 生物資源総合科学コース1年生の協定校派遣	24
(5) 短期招へい教員2名の受入	24
<b>7. 地域イノベーション学研究科</b>	25
(1) 第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2024)	25

### III. 国際交流センターの活動

<b>1. 留学生の受入れ</b>	27
(1) 協定校からの交換留学生	27
(2) 日本語・日本文化研修留学生 (日研生)	27
<b>2. 留学生対象科目・プログラム</b>	27
A. 日本語教育コース	29
(1) 日本語科目	29
(2) 市民開放授業	29
(3) 基礎日本語講座	29
B. 国際キャリアアップコース	29
(1) 英語による授業	29
(2) 海外短期研修 (国際交流センター実施)	29
<b>3. 三重大学国際教育交流活動</b>	30
(1) 国際交流 Days	30

### IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

<b>1. 留学生支援</b>	32
(1) 在留資格認定証明書代理申請	32
(2) 新渡日留学生オリエンテーションの実施	32
(3) 私費外国人特待留学生制度	32
(4) 奨学金に関する支援	32
(5) 留学生への就職支援	32
(6) 三重地域留学生交流推進会議の開催	33
(7) 日本人レジデントアシスタント (RA)	33
(8) チューター制度	33
(9) 留学生住宅総合保障 (機関保証制度)	33
(10) 留学生研修旅行	33
<b>2. 海外留学支援</b>	34
(1) 交換留学生の授業料免除制度	34
(2) 交換留学	34
(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第16期採択結果	34
(4) 三重大学学生海外チャレンジ応援事業	34
(5) 奨学金に関する支援	35

<b>3. 地域における国際化交流</b> .....	36
(1) 留学生の地域派遣.....	36

## V. 資料

<b>1. 海外大学等との協定締結機関地図</b> .....	38
<b>2. 学術交流協定大学・機関一覧</b> .....	40
(1) 大学間協定：25カ国・地域 83大学・機関 .....	40
(2) 部局間協定：24カ国・地域 44大学・機関 .....	42
<b>3. 2024年度 国籍別・学部別外国人留学生数</b> .....	43
(1) 2024年度 国籍別留学生数 .....	43
(2) 学部・研究科等別 留学生数.....	44
<b>4. 三重大学生の海外派遣</b> .....	44
(1) 交換留学による派遣 .....	44
(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣 .....	44
(3) 海外短期派遣プログラム（部局別）.....	45
<b>5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育業績</b> .....	46
<b>6. 歴代国際交流センター長 一覧</b> .....	49





## 2024年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

2024年度国際交流年報の発刊にあたり、理事（研究・社会連携／グローバル化担当）としてご挨拶申し上げます。

三重大学では、2025年4月より国際交流センターを改組し、新たに国際交流機構として活動を開始いたします。2022年度から始まった国立大学法人第四期中期目標・中期計画も折り返しを迎える中、本学は「ビジョン2030」に基づき、「三重から世界へ、世界から三重へ、未来を拓く地域共創大学」を理念に掲げ、教育・研究・社会貢献の推進に努めています。

本学が最も大切にしている基本理念は、国際社会とのつながりを深化させ、地域社会との連携を強化しながら、多様な場で活躍できる人材を育成するとともに、世界トップレベルかつ独創的な研究を遂行することにあります。その理念のもと、地域・社会・世界とつながりながら行動する力を育む教育を展開しています。

具体的には、グローバルな視点を持ち国際的に活躍できる人材を育成するため、国際共修授業（COIL授業）の充実を図るとともに、大学院在籍中に英語による論文執筆や研究発表の機会を増やしています。さらに、優秀な留学生を戦略的に受け入れて教育するため、日本語教育プログラムの拡充を進める一方、海外に関心を持つ日本人学生には、交流協定校への交換留学や春期・夏期語学研修など多様なプログラムを提供し、大学として全面的に支援しています。

本年報では、本学における国際交流の取組、その内容や成果をご紹介します。今後の活動を一層実りあるものとするため、皆様からのご意見・ご要望・ご質問、さらには建設的なご批評も歓迎いたします。ぜひ国際戦略チーム編集部までお寄せいただければ幸いです。



**金子 聡**

理事（研究・社会連携／  
グローバル化担当）  
国際交流機構・機構長





# 三重大学における国際化および国際交流

## 1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置

(第4期中期目標・中期計画 (2022～2027年度))

### (1) グローバルな視点を持った国際的に活躍できる人材を育成

#### (目標)

学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。

#### (計画)

国内外において、グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため、国際共修授業であるCOIL授業を充実させるとともに、大学院在籍中に英語による論文作成や研究発表を経験した学生数を増加させる。また、優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために、日本語教育プログラムを充実させる。

### (2) 留学生寄宿舍の整備・留学相談体制を充実させ、安心して学べる環境を提供する

#### (目標)

様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。

#### (計画)

学生の海外留学及び留学生の受入れに関する取組を推進し、各部局等と連携しながら留学生を含む学生の生活及び修学支援を拡充させる。留学生寄宿舍の整備、及び留学に関する相談体制を充実させる。

## I. 三重大学における国際化および国際交流

### 2. 協定大学との主な国際交流活動

#### (1) Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム

Tri-U国際ジョイント&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）、IPB大学（インドネシア）、広西大学（中国）、メージョー大学（タイ）の6大学が交代でホスト校を務め、毎年開催される研究論文発表を中心とした国際交流プログラムである。2024年度（第30回）は、江蘇大学にて11月11日（月）～11月15日（金）の日程で開催され、4カ国7大学から120名を超える学生・教職員が参加した（本学からは学生11名、教職員8名の計19名が参加）。本シンポジウム内では、「人口」、「食料」、「エネルギー」、「環境」、「AI and the sustainable development of human society」（開催校が設定）をテーマに、口頭発表やワークショップが行われた。



口頭発表の様子



フェアウェルパーティーの様子

#### (2) ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学、パジャジャラン大学・インドネシア）

ダブルディグリープログラムとは、博士前期課程1年次はインドネシアにおいて、2年次は日本において講義の受講と研究を実施し、それぞれの研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すると三重大学とインドネシアの大学からの2つの修士の学位が授与される制度である。2008年に生物資源学研究科とスリウィジャヤ大学農学研究科がダブルディグリープログラムに関する協定を結んだ。その後、2012年にパジャジャラン大学環境科学研究所とも協定が結ばれた。2024年度からJASSOの協定受入れによる奨学金を5名分獲得できたこともあり、本年度はパジャジャラン大学より3名、スリウィジャヤ大学より2名の学生が10月に入学して在籍し、それぞれが希望する教員の指導の下で研究を進めている。

2024年10月にはパジャジャラン大学の教員3名が三重大学を訪れ、ダブルディグリープログラムの運営方法等に関する簡単な打合せを行うとともに、MIE-U国際交流協定校外国人若手教員受入れプログラムによりパジャジャラン大学から三重大学に講師として滞在中のDina Oktavia 博士も交えた食事会を持ち、親交を深めた。また2024年12月に教員1名が兼任教授としてスリウィジャヤ大学を訪問した際、JASSOの協定受入奨学金の内容を学生に説明し、プログラムの運営方法について農学部長をはじめとする教員と議論した。

### 3. 国際交流事業の経費助成

#### (1) 三重大学国際交流事業経費助成制度

国際交流推進経費より、国際交流の取組に対し1部局あたり50万円、計14件の助成を行った。助成対象案件は次のとおり。

2024年度 三重大学国際交流事業経費助成申請一覧

	部局名	申請代表者	事業名(申請時の名称)	形成プログラム種別	人数	対象国・地域	時期
1	全学共通教育センター	サコラヴスキー ジェシー	国際理解実践1(シェフィールド大学国際理解研修)	■教職員派遣 ■学生派遣	2名	連合王国	令和7年 2月13日~3月9日
2	人文学部	麻野 雅子	スリランカ短期研修プログラム	■教職員派遣 ■学生派遣	11名	スリランカ	令和7年 2月9日~2月19日
3	教育学部	荒尾 浩子	オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	■教職員派遣 ■学生派遣 ■国際教育プログラムの開発や推進等	19名	ニュージーランド	令和7年 3月1日~3月17日
	教育学部	服部 明子	異文化理解を深める教育研修「海外教育実地研究B」の実施	■教職員派遣 ■学生派遣 ■国際教育プログラムの開発や推進等	10名	台湾	令和7年2月頃
4	医学系研究科	島本 亮	部局間協定校(ワシントン大学)との持続的・安定的な双方向型の交流基盤の構築	■教職員派遣 ■外国からの受入 ■国際教育プログラムの開発や推進等	2名	アメリカ	令和6年4月頃・ 令和7年3月頃
5	工学研究科	森 香津夫	ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツィニング・プログラムの実施(継続令和6年度)	■教職員派遣 ■学生派遣	2名	ベトナム	令和6年10月
	工学研究科	森 香津夫	7研究領域国際シンポジウムの開催と国際化教育プログラムの推進	■その他	7名程度	ドイツ, インド, タイ, 中国, イ タリア	令和6年 9月~12月頃
6	生物資源学研究科	中島 千晴	学部教育初期における海外実習派遣	■教職員派遣 ■学生派遣	40名	マレーシア	令和6年8月頃
	生物資源学研究科	湖上 佑樹	Forest Student Exchange Program UNMUL-KPU-MU-KU in Japan	■海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ	12名	インドネシア	令和6年6月頃
7	地域イノベーション学研究科	諏訪部圭太	第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催と交流事業	■海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ	4名	台湾, 韓国, マ レーシア, イ ンドネシア	令和6年7月~10月
8	国際交流センター	松岡知津子	海外フィールド研修2024	■教職員, 学生派遣	13名	ベトナム	令和7年3月頃
	国際交流センター	正路 真一	サウスカロライナ大学語学・異文化理解研修	■教職員, 学生派遣	1名	アメリカ	令和6年 8月19日~9月27日

(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ

三重大学の教育環境の国際化を図るとともに、教育活動の一層の進展に寄与するため、これまで交流の実績を有する海外の教育・研究機関および将来的に協定締結を視野に入れている海外の教育・研究機関からの外国人教員の短期招へいを推進している。

短期招へい外国人教員の職務は、①受入れ学部等における学生への教育及び学生への研究指導、②本学の国際化教育と国際化推進活動への助言及び支援、③部局専門領域での教育参加のほか、全学共通教育センター及び他部局での教育機会創出の奨励である。

2024年度の外国人教員短期招へいプログラムは次のとおり。

2024年度外国人教員短期招へいプログラム一覧

	学部・研究科	研究者氏名	所属大学	所属先の身分	受入期間		受入れ教員
1	全学共通教育センター	JOHNSTONE, Helen	シェフィールド大学(英国)英語教育センター	アカデミック・ディレクター	2024.9.5	2024.9.19	鶴原 清志
2	工学研究科	Mourad Boutahir	ムーレイ・イスマイル大学	Associate Professor	2024.7.22	2024.8.22	中村 浩次
3	生物資源学研究科	Mohammad Raihanul Islam	Bangladesh Agricultural University	教授	2024.9.1	2024.11.21	岡島 賢治
4	生物資源学研究科	Rajesh Prasad	南太平洋大学	講師/特別研究員	2024.12.9	2024.12.22	筒井 直昭
5	国際交流センター	Emearld King	タスマニア大学	教授	2024.11.17	2024.12.2	松岡知津子

## I. 三重大学における国際化および国際交流

### (3) 外国人研究者受入れ

学術研究の国際交流を推進するため、教員と共同して研究に従事する外国人研究者の本学への受入れに関し必要な事項を定めている。本学の外国人研究者として受け入れることのできる者は、

- ① 本学の教授、准教授、講師、助教又は助手と同等以上の資格があると認められる者。
- ② 原則として1カ月以上にわたり学部等で行う共同研究に貢献できる者。

外国人研究者は、あらかじめ定められた研究計画に従い共同研究に従事している。

2024年度の受入れは次のとおり。

#### 2024年度外国人研究者受入れ人数

受入部局	人数	国籍内訳
人文学部	1	中国 (1名)
医学系研究科	1	ドイツ (1名)
工学研究科	4	中国 (2名)、タイ (1名)、インドネシア (1名)
生物資源学研究科	5	中国 (4名)、バングラデシュ (1名)



# 各学部・研究科等の主な国際交流活動

## 1. 全学共通教育センター

### (1) 国際理解実践1：シェフィールド大学国際理解研修

2024年度後期集中講義「国際理解実践1」は、学生を英国に3週間派遣し、シェフィールド大学英語教育センター(English Language Teaching Centre: ELTC)において、他国の学生と共に英語、英国の文化、歴史を学ぶとともに、現地の一般家庭でホームステイを行うことを通して、英語のみの環境での日常生活を体験する国際理解研修を実施する授業である。多様な文化的背景を持つ人々と交流することにより、異文化に対する幅広い理解と異文化間コミュニケーション力を高めることを通して、世界的視野を備えたグローバルに活躍できる人材の育成を目指す。

シェフィールド大学での研修には、ELTCにおいて2025年2月17日～3月7日に実施し、5学部16名の学生が参加した。受講生の内訳は以下の通りである。

学部	年次	1年	2年	計
人文学部		5	0	5
教育学部		1	0	1
医学部		5	0	5
工学部		1	0	1
生物資源学部		2	2	4
計		14	2	16

研修には、授業担当者2名の教員が引率し、学修面・生活面の相談に乗るなどの支援を行なった。参加者は、それぞれの語学力に応じたクラスに登録し、他大学から研修を受けに来ている多国籍の学生との混合クラスで研修を受けた。研修内容としては、ELTCの教員によるリーディング・ライティング、スピーキング・リスニングに関する講義の受講と日帰り研修旅行が提供された。また、研修のプログラムには含まれないものの、ELTCやシェフィールド大学において提供されている課外活動への参加を通して、現地の学生と交流を深めた学生もいた。

なお、研修期間中は、ELTCと連携しているホームステイ団体による支援を受け、現地の一般家庭にホームステイを実施した。



みんなで仲良く



研修の伝統：ELTCの前で集合



シェフィールド市で冒険



リンカーン大聖堂と共に

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動



アイス・ホッケー観戦



シェフィールド大学での授業風景  
(プライバシーの関係で過去の写真を再掲)



そろそろ帰国

### 海外研修に関するアンケート結果

海外研修に対する学生からの評価は以下の通りであり、概ね良好な結果であった。シェフィールド大学の英語教育センターは、イギリス国内最大規模で、外部委託ではなく大学独自で運営され、その研修の質の高さには定評がある。総合的な満足度では、そのことが評価されていると考えられる。また、英語のリスニング力やスピーキング力が向上したと高く評価されているのは、同センターの実践的な研修内容に起因すると考えられる。また、同センターが、長年、地元のホームステイ団体からの協力を得ながら実施しているホームステイは、高い評価を受けている。

#### アンケート結果（2025年3月14日現在）【回答者数15名，1：全く当てはまらない～5：とても当てはまる】

海外研修に関するアンケート結果	平均
A. 総合して、海外研修に満足できた。	4.5
B. 海外研修前の学内オリエンテーションは適切で合った。	4.5
C. 海外研修を通して、英語のリスニング力が向上したと思う。	4.7
D. 海外研修を通して、英語のスピーキング力が向上したと思う。	4.6
E. 海外研修を通して、英語のリーディング力が向上したと思う。	3.6
F. 海外研修を通して、英語のライティング力が向上したと思う。	3.9
G. 海外研修の授業外活動に満足できた。(ELTC提供)	4.3
H. ホームステイに満足できた。	4.4

### 研修に関する感想（一部抜粋）

- ・ I am really satisfied with this program overall, Next time, I want to study abroad for a long period,
- ・ I was able to have a variety of experiences in these three weeks, All of them were valuable experiences for me, and I met many wonderful people, It was my first time studying abroad, so I was worried about many things, but having my teachers there helped me feel at ease, There was a lot of support financially, so the burden was less than I had imagined,
- ・ I could learn about many cultures, not only British, but also Chinese, Korean, and so on, because I became friends with people from those countries, and I could broaden my views from those experiences, I can speak English more confidently than before,
- ・ I have no regrets about this program, Everything was really great experiences, I was able to improve my English skills and I want to continue to study hard to improve my English, I was able to enjoy not only studying, but also taking trips on holidays,
- ・ This study abroad experience was a good opportunity for me to negotiate my motivation to study English, For someone like me who had never been abroad, England was a great country,

### 来年度の受講生に向けてのメッセージ（一部抜粋）

- ・ This experience became one of my best memories, Please enjoy it as much as you can by talking with local people, walking around Sheffield, shopping at the center and so on, Since food in the UK was so good, you don't have to

- bring so much Japanese food,
- ・ If you are at all interested, please join the class!
  - ・ There are so many things that you can learn in this program and it is a really great experience, It is really good to spend time with host family, to study at the University of Sheffield, to be able to go with other Mie University students and teachers, and to travel on weekends,

## 2. 人文学部・人文社会科学研究科

### (1) 2024年度スリランカ短期研修に関する報告

本研修では、スリランカの現状とそこから見えてくる日本を含む先進国の姿を知ることにより、各種メディアや文献だけでは知ることのできないスリランカを含む南アジア地域への理解を深めることを目的として、以下の内容の研修を行った。

#### 【目標】

以下の2点を今回のスリランカ短期研修プログラムの目標とした。

1. スリランカと日本の関係を歴史、社会、経済という3つの側面から理解する。
2. スリランカ・サバラガムワ大学の学生との交流を行う。

#### 【参加者】

1. ドーナ・オーシャディ（人文学部・助教）
2. 野上志学（人文学部・准教授）
3. 畠中茉莉子（人文学部・講師）
4. 人文学部 学部生7名（文化学科3年生2名、法律経済学科4年生1名、3年生2名、2年生2名）  
（以上、計10名）

#### 【スケジュール】

現地でのフィールドスタディーに先立ち、同行する教員とともに計3回の事前研修を実施した。また、現地での活動を円滑に進めるための準備として、参加学生は詳細な研修用マニュアルを作成するとともに、班別探究活動の計画書を作成した。その上で、計4回の打ち合わせも行った。

##### a. 事前研修：

- 第1回 2024年10月30日 16:30-17:30  
「文化の違いを越えて～スリランカでの活動から学んだこと～」
- 第2回 2025年1月6日 14:40-16:10  
「Visit to Wikiliya Tea Estate – Social and Economic Realities」
- 第3回 2025年1月20日 14:40-16:10  
「オンライン交流会：サバラガムワ大学について」

##### b. 打ち合わせ：

- 第1回 2024年 9月30日 12:00-13:30
- 第2回 2024年12月15日 11:30-13:00
- 第3回 2025年 1月15日 11:30-13:00
- 第4回 2025年 2月 5日 17:30-18:30

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

### c. フィールドスタディーの主な内容及び日程：

- 2月9日（日） 中部国際空港発，シンガポール経由でコロombo空港，コロombo市内へ
- 2月10日（月） 日本とスリランカの社会的な関係についての研修（スリランカ）における障害者の就労支援促進プロジェクトについて  
（JICAコロombo事務所・スリランカ社会福祉省）
- 2月11日（火） ① 日本とスリランカの歴史的な関係についての研修  
（J, R, Jayewardene センター）  
② スリランカの高校生の日本語教室の見学・日本文化紹介イベント  
（Hinode 日本語学習センター）
- 2月12日（水） コロomboからベリフルオヤ市（サバラガムワ大学が位置している地域）への移動，Udawalawa 市内研修
- 2月13日（木） ① スリランカの日本語教育の現状と課題についての研修と大学生とのディスカッション（スリランカ・サバラガムワ大学）  
② 現地の大学生との異文化交流プログラム I
- 2月14日（金） ① 紅茶の生産，紅茶農園の労働状況と貧困問題についての研修  
（Wikiliya Tea Factory）  
② 異文化交流プログラム II：日本の文化紹介イベント  
（紅茶工場の周辺にある Wikiliya タミル学校）
- 2月15日（土） ① 異文化交流プログラム III：日本・スリランカ文化紹介イベント  
（スリランカ・サバラガムワ大学）  
② 振り返りと発表（スリランカ・サバラガムワ大学）  
コロomboへの移動
- 2月16日（日） 学生の班別探究活動（コロombo市内）
- 2月17日（月） 日本とスリランカの経済的な関係についての研修  
（JETROコロombo事務所）
- 2月18日（火） コロombo空港発，トランジット先のシンガポール着，トランジットツアー
- 2月19日（水） シンガポール発，中部国際空港着

上述の内容を通じて，人文学部の学生にとって，スリランカと日本の関係について学ぶだけでなく，南アジアにおけるスリランカの実状に実際に触れる機会となった。さらに，JICA（国際協力機構）やJETRO（日本貿易振興機構）などが現地で取り組んでいる課題を通じて，南アジアの周辺国について深く理解することができたことは，参加者にとって貴重な経験であったと考える。これに加え，異なる視点から日本を含む先進国，さらには自分自身を見つめ直すことができたこと，参加者は振り返っている。

### 【参加者の感想・振り返り】

- ・スリランカという国について知ることができただけでなく，今後の生き方まで考えさせられるような本当に大きな契機になった。
- ・JICA という名前は中学高校で習ったが，実際の活動内容を初めて知り，非常に勉強になった。
- ・社会がまったく異なる場所で暮らす人々の考えや価値観には，自分の知らないことが多く，それらを見聞きすることで，物事の捉え方や視野が広がったと実感した。
- ・自分が将来，日本やスリランカ，さらには世界に対してどのような価値や役割を提供できるのかを考えるきっかけになった。
- ・国際協力団体の方々とは密に関わる機会を得たことで，将来の方向性をより明確にすることができた。
- ・日本の文化を正しく詳細に紹介できるよう知識をより身に付け，さらに外国の文化や社会を知り経験することで様々な視点から物事を考察しようと思える素晴らしい機会となった。

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

### 【フィールドスタディーの写真】



JICA 専門家による講義: 障害者の就労支援  
促進プロジェクト (スリランカ社会福祉省)



日本とスリランカの歴史的關係  
(J, R, ジャヤワルダナセンター)



日本とスリランカの経済的關係  
(JETRO コロンボオフィス)



スリランカの日本語教育  
(サバラガムワ大学・マルシャ先生)



スリランカの紅茶生産について  
(Wikiliya 紅茶工場・紅茶農園)



工場の労働者へのインタビュー  
(Wikiliya 紅茶工場)



日本文化紹介イベント  
(Wikiliya タミル学校)



大学生との異文化交流イベント  
(サバラガムワ大学)

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

### (2) 2024年度留学生交流会の報告

昨年に引き続き、人文学部の留学生交流会を開催した。計5つの国・地域から来日した多彩な留学生の参加があった。参加者による自己紹介や、お国自慢の紹介などを交えて、有意義な交流の場とすることができた。

【日時・会場】2025年1月22日（水）18:00～20:00 生協第一食堂の2階

【参加者】留学生（人文学部、人文社会科学研究科など）14名（内訳は、中国4名、台湾2名、韓国1名、ドイツ4名、ブルガリア1名、不明2名）

教員 8名



## 3. 教育学部・教育学研究科

### (1) 令和6年度「海外教育実地研究B」（教育学部・学部共通開講科目）の実施

近年、三重県では、日本語指導が必要な外国人児童生徒等の在籍率が増加している。教育学部では、教育現場で急増する外国人児童生徒への日本語指導に関連して日本語教育科目を設定している。本授業は、台湾（高雄市）における海外研修を通じ、日本語教育、母語・継承語教育、多文化共生への理解を深めることを目的として、令和2年度に新設した。令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことから、現地研修としては、昨年度が初であり、令和6年度は2回目の実施となった。

履修学生は5名であった。所属コースおよび学年は、音楽教育コース1年1名、家政教育コース1年1名、国語教育コース2年2名、国語教育コース3年1名であった。

後期開講授業（2単位）とし、前半（第1回～第8回）は、教員3名が担当する講義やオンラインによる現地受け入れ関係者からのレクチャーなどにより、日本語教育史、年少者日本語教育、異文化理解やコミュニケーション、現地台湾

高雄日本人学校



日本台湾交流協会



文藻外語大学（協定校）



に関する基本的な知識を身につけた。その後、参加する学生各自が研修を通して学びたいテーマをそれぞれ決定し、事前にフィールドワークの計画を立てた。現地では、協定校である文藻外国語大学の学生によるサポートを得て学生交流を行いながら実施することとし、渡航前にオンライン上で、両大学の学生が自己紹介する時間を設けた。後半（第9回～第15回）は、2024年2月13日（木）～2月17日（月）にかけ、台湾・高雄市で研修を行った。高雄日本人学校、公益社団法人日本台湾交流協会高雄事務所を見学した。また、文藻外国語大学の学生によるサポートを得ながら学生交流およびフィールド調査を実施し、双方の交流を深めた。研修期間中は、短期間の研修の中で学びが深められるよう、リフレクションの機会を多く設けた。さらに、帰国後、各自が学んだことをもとにレポートを執筆し、それらをまとめ、研修全体の成果物として報告書および研修動画を作成した。

多角的に異なる言語・文化に触れ、実地で学ぶ機会により、日本とアジアを相対的に捉え、異なる文化や言語への理解、異文化理解能力を高めることができた。また、海外の日本人学校において授業見学ができたことは、教員養成課程における実践につながる非常に貴重な体験となった。

### (2) ホーチミン市師範大学との連携による科学人材の育成と交流を目的とした理科研修プログラム

日本科学技術振興機構「さくらサイエンスプログラム」の支援を受け、令和6年11月14日（木）から20日（水）にかけて、「科学人材の育成と交流を目的とした理科研修プログラム」を行なった。三重大学の協定校であるホーチミン市師範大学の学生7名と教員1名を三重大学に招へいし、三重県内のスーパー・サイエンス・ハイスクール（津高等学校、四日市高等学校）への学校訪問や、博物館・科学館への訪問を行なった。今回のプログラムでは、三重大学で実施している「ジュニアドクター育成塾」の受講生との交流に加え、ジュニアドクター育成塾にメンターとして関わっている教育学部生や、現職の中学校教員との交流会も行なった。これらの体験や交流を通して、子ども達的能力を引き出す理科の指導法について考えることを目的とした。

昨年に引き続き、ジュニアドクター育成塾の受講生4人による「ミニ研究発表会」が行われ、日本語や英語で行われた研究発表に対し、招へい者達から多くの質問やアドバイスが寄せられた。翌日には、招へい者達は受講生達（希望者のみ）と共に名古屋市科学館を訪問し、いくつかのグループに分かれて科学館の様々な展示物を楽しんだ。

招へいした学生達は卒業後に主に高校の理科教員を志望しており、ベトナムの理科教育のこれからの在り方に高い関心を持つ学生達である。本プログラムで学んだことがベトナムの理科教育の発展に貢献するものと期待している。



ジュニアドクター育成塾の受講生達と名古屋市科学館を訪問

### (3) オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

教育学部ではニュージーランドのオークランド大学教育学部との連携により、2011年度より海外実地研修を実施している。現地の学校訪問やオークランド大学教育学部の授業に現地の学生と共に参加したり、NZの教育システムや多文化教育の方法の特別講義を受け、幼・小・中・高の学校訪問を通して、異なる教育のあり方を知識として得ると共に、体験的に学ぶ教育研修プログラムである。今年度は、3月1日から3月17日まで、教育研修を実施した。参加学生は12名（学部生6名、大学院生6名）で、3名の教員が引率にあたり第12回目の現地実施となった。

プログラムを通して参加学生は、多様性に溢れ、多文化を尊重する社会のあり方やそれを反映した学校教育、小グループで学び個を尊重し能力を伸長する授業、教育環境、ICTを活用しつつアナログ的な活動を融合した教育活動など、目



## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

通大学（中国）、アムリタ大学（インド）には、今年度実習交流はなかった。

海外臨床実習では、日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）に採択され、31名に奨学金を給付した。また、早期海外体験実習にて11名の医学部学生がタイ、米国などで実習を行なった。

様々な実習生の報告を医学部ニュースに掲載。（[https://www.med.mie-u.ac.jp/med/2024/05/post\\_14.html](https://www.med.mie-u.ac.jp/med/2024/05/post_14.html)）

（一例を下記に記載）

2024年4月8日から5月3日までの4週間、海外臨床実習として、イギリス・カーディフ大学で病院実習を行いました。

私が海外エレクトィブを希望したきっかけは高校1年次にオーストラリアで病院見学をしたことです。高校生ながら、救急車の色さえも異なる世界の医療の多様性に驚き、オーストラリアには総合診療医GP制度という日本とは異なる医療制度があることを知り、「今度は医学生として、臨床実習という形で病院実習をし、海外の実際の現場で医療を学びたい」という目標ができました。新型コロナ感染症拡大などもあり、留学から遠ざかる日々が続きましたが、昨年海外実習が再開し、三重大学を訪れたカーディフ大学の医学生と交流する中でカーディフ大学での実習に興味をもち、GP制度が根づくイギリスで医学英語を学びたいと、カーディフ大学での実習を希望しました。また自分の興味のある科を選択できることも大きな魅力でした。実習では、興味があった免疫内科と眼科を2週ずつ回りました。

最初の2週間は免疫内科を回りました。カーディフ大学では、膠原病内科や内分泌内科とは独立して、免疫不全症やアレルギーを専門とする免疫内科があり、本学免疫学研究室で研究室研修をしている私にとって、日本では珍しい、臨床科として独立した免疫内科を学ぶ貴重な機会となりました。Stephen Jolles教授にご指導いただき、外来やミーティング、免疫グロブリン療法に参加し、免疫不全症やアレルギーについて学びました。

免疫不全症というと小児の時期に感染を繰り返すような印象があったのですが、免疫内科では免疫グロブリン療法やレスキューパック（感染が起きた時のための抗菌薬）のような、感染を起こさないための予防措置が主な治療として行われていました。GP制度をもつイギリスでは、ミーティングの中でも総合診療医GPとの連携が話題になっており驚きました。COVIDや低 $\gamma$ グロブリン血症など様々な免疫不全症について学び、免疫グロブリン療法や外来の中で実際に患者さんとお話しして、大人になってから発症するケースや2次性に免疫不全症を発症するケースもあることを学びました。また非常に稀なX連鎖リンパ増殖症候群XLP1の患者さんとそのご家族に対して、検査前の同意取得と説明の段階から、ミーティング、フローサイトメトリーの検査結果、免疫グロブリン療法のトレーニングの様子、診断までの一連の流れを追うという経験をしました。XLP1のように、先天性免疫不全症で用いられる遺伝子検査は結果が出るまでに数ヶ月かかるため、研究でよく用いられるフローサイトメトリーが、免疫不全症の原因探究と迅速に治療方針を決める上で非常に重要であることも知りました。免疫内科では、研究と臨床の内容が密接に関わっており、研究と臨床の両方に興味がある私にとって非常に興味深い実習でした。またStephen Jolles教授を含め、医師や看護師、後期研修医の先生方など免疫内科チームに暖かく迎えていただき、充実した実習となりました。

後半の2週間は眼科を回りました。様々な分野で外来見学と手術見学を行いました。日によってそれぞれの分野の専門の先生につく形式で実習をし、白内障・緑内障・網膜疾患などについて、術前の外来・検査から手術、術後のフォローアップと一連の流れを学ぶことができたと同時に、ぶどう膜外来、遺伝外来や小児眼科外来などの幅広い分野に触れることができました。ぶどう膜炎外来では、サルコイドーシスやHLA B27関連疾患のほか、若年性特発性関節炎JIAや感染性など様々な原因のぶどう膜炎の所見を細隙灯顕微鏡検査を用いて学び、前房蓄膿の所見による鑑別や画像上の違いを実際に見ながら、患者さんから直接お話を聞くことができ、大変勉強になりました。白内障手術では、術前の診察から執刀医の先生について見学し、細隙灯顕微鏡検査で患者さんの目を見た後、手術室で1対1で教えていただき、顕微鏡で執刀医の先生と同じ景色を見学する非常に貴重な機会を得ました。手術は他に、緑内障に対する線維柱帯切除術やレーザー手術、網膜硝子体手術、眼科形成手術を見学しました。また遺伝外来では、Marcela Votruba教授の下で、Leber遺伝性視神経症、ミトコンドリア症MERRFなどの症例を見学し、眼科疾患モデルマウスのラボミーティングへの参加や人工角膜ハイドロゲル移植について講義を聞く機会を得ました。三重大学学生海外チャレンジ応援事業の一員として、昨夏、幹細胞再生医療センターでhiPS細胞の培養や分化を学んだ私にとって、実臨床での再生医療への応用やその内容に関する研究の講義を聞く非常に貴重な機会となりました。

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

本実習で非常に多くのことを学び、経験し、充実した臨床実習となりました。このような素晴らしい機会をいただきましたこと大変感謝申し上げます。今回の留学に関して、ご協力いただきました形成外科の成島先生、山田様、カーディフ大学Emma様およびご支援いただきましたトビタテ留学JAPANの皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。そして留学先でご指導いただきました皆様を含め、多くの学びと出会いに感謝申し上げます。今回学んだことを将来に繋げ、今後も引き続き実習に取り組み、より良い医師を目指し、一層努力を重ねたいです。

### 海外臨床実習 (6年)



Zambia (ザンビア大学) Tanzania (タンザニア大学)  
 UAE (シャルジャ大学) Italy (ペルージャ大学) UK (カーディフ大学)  
 Thailand (コンケン大学・タマサート大学)  
 Laos (健康科学大学) India (アムリタ大学) China (上海交通大学)  
 USA (ワシントン大学) Australia (フリンダース大学)  
 Philippines (フィリピン大学) Brazil (サンパウロ大学)

#### 本学の特徴

- ・ 選抜制ではない。
- ・ 1学年の約半数が参加する大規模な海外派遣である。
- ・ アジア、アフリカ諸国を対象とする実習である。
- ・ 大学からの学生への経済的な補助を行っていない。

### <協定校からの海外実習生受入れ>

4名の初期研修医（タイ・タマサート大学2名、インド・アムリタ大学2名）及び12名の医学科学生（上海交通大学2名、タイ・タマサート大学11名）を受け入れた。

各実習生は三重大学の胸部心臓血管外科、産婦人科、肝胆膵・移植外科、神経内科、整形外科、循環器内科、消化管・小児外科学、形成外科など、様々な科での実習を行った。

また、三重大学の医学部生との交流活動も行った。

### 【大学院受け入れ】

文科省国費外国人優先配置プログラムにて3名、大使館推薦による国費外国人留学生1名の計4名の新たな留学生の受け入れを行った。

特に現在、アフリカからの留学生を積極的に受け入れており、ザンビア9名ガーナ9名エジプト1名が在籍している。今後タンザニアなどさらに受け入れていく予定である。

### 【大学院講義 2024 Graduate School Handouts 授業科目：国際保健医療特論（博士課程）・国際保健医療概論（修士課程）】

下記の日程で授業を行った。

	月日 Date (Japan Time)	時間 Time (Japan Time)	場所 Place	所属・分野 Educational Research Subfield	担当者名 Name of lecturer	講義題目 Title of lecture
1	11月11日	17:30～19:00	Online	非常勤講師 Chief of Emergency department, Saiseikai	久留宮 隆 Takashi Kurumiya	Médecins Sans Frontières, the path I followed. -From Liberia to Ukraine-
2	11月18日	17:30～19:00	Online	修復再生病理学 Pathology and Matrix Biology Professor	今中 恭子 Kyoko Imanaka	Matrix Biology in Medical Science
3	11月25日	17:30～19:00	Online	公衆衛生・産業医学・実地疫学 Department of Public Health, Occupational Medicine, and Applied Epidemiology Professor	神谷 元 Hajime Kamiya	Global Health and Applied Epidemiology
4	12月6日	17:30～19:00	Online	非常勤講師 鈴鹿医療科学大学 (Suzuka University of Health Science)	堀 浩樹 Hiroki Hori	WHO-Global initiative for childhood cancer
5	12月9日	17:30～19:00	Online	地域看護学 Public Health Nursing Professor	谷村 晋 Susumu Tanimura	Fieldwork for an epidemiological survey: schistosomiasis in Myanmar
6	12月16日	17:30～19:00	Online	小児科学 Pediatrics Associate Professor	三谷 義英 Yoshihide Mitani	Health Care in Children: School Electrocardiography Heart Screening and Medical Transition of Kawasaki Disease-related Coronary Sequelae

## Ⅱ. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

	月日 Date (Japan Time)	時間 Time (Japan Time)	場所 Place	所属・分野 Educational Research Subfield	担当者名 Name of lecturer	講義題目 Title of lecture
7	12月23日	17:30～ 19:00	Online	Zambia University the chief of plastic and reconstructive surgery	Chihena Banda	Current medical care and the future of plastic surgery in Zambia
8	12月27日	17:30～ 19:00	On site & online	非常勤講師 延辺大学 医学部 循環器・高血圧内科 Yanbian Daxue	WU XIAN CHENG (成 憲武)	Chronic Psychological Stress-Related Metabolic Disorder: Focusing on the Role (s) of DPP4/GLP1 Axis.
9	1月10日	17:30～ 19:00	Online	ゲノム医療学 Genomic Medicine and Genetic Counseling Professor	奥川 喜永 Yoshinaga Okugawa	Epigenetic Biomarker in Gastrointestinal Cancer
振替用	1月20日 (12月27日 振替用)	17:30～ 19:00	Online	形成外科学 Plastic and Reconstructive Surgery Professor	成島 三長 Mitsunaga Narushima	Mitsunaga Narushima Current status and peculiarities of insurance treatment for foreigners in Mie Prefecture.
10	1月27日	17:30～ 19:01	Online	非常勤講師 Memorial Sloan Kettering Cancer Center	吉松英彦 Hidehiko Yoshimatsu	How to work as a surgical doctor in USA

### 【医学部看護学科（大学院医学系研究科看護学専攻）交流報告】

2025.3.24～29 Flinders University

#### はじめに

3月下旬にフリンドース大学へ看護と助産を学びに行った。南オーストラリアのアデレードにあり、2日間大学へ訪問した。短期間だったが、1日1日の内容が濃かった。学生や先生との交流、授業への参加から多くのことを学んだ。項目ごとに分けて記述する。

#### 研修内容

フリンドース大学について

17の学部があり、3つのキャンパスに分かれている。看護学部と助産学部は Sturt Camps にある。どちらも3年間のコースだった。



Sturt Camps メインエリア



看護学部のキャンパス内



大学に隣接する病院

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

### 看護学部のカリキュラム

1年生 オーストラリアの医療制度における看護 例)看護コミュニケーション, 人体解剖学および生理学, 看護のための健康評価, 研究と証拠に基づく実践の紹介健康における心理社会的視点 例)先住民の健康と文化の安全, 演習

2年生 病態生理学, 薬理学, 健康看護管理, 演習と実習 例)看護における法のおよび倫理的考慮事項 身体的および精神的健康 例)健康における安全性と品質, 練習と専門的など

3年生 登録看護師の役割における専門的な説明責任, 責任, ガバナンス, リーダーシップ, 演習と実習, および慢性的で複雑な健康ニーズを持つ人々のケア

### 助産学部の学生や先生と交流

10時と15時に「teatime」と呼ばれる習慣があった。10分ほど学生同士や先生達がコーヒーや紅茶を飲みながら会話する機会だった。今回は約1時間を設けていただいた。現地の助産学部の学生2名, 看護学部や助産学部の先生3名と会話した。

### 会話から新たに知った内容

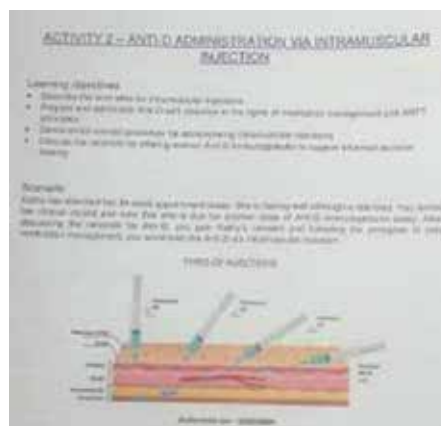
- 助産学生 ・高校卒業後に gap year をした
- ・助産学部に入るまで他の学部で勉強していた
- ・法律学部→助産学部へ編入後は前の学部で取得した単位が認められる
- ・3年間で40人のお産をとる

### 授業へ参加

1つの学年をグループに分けて学習していた。各グループ約15名で50分授業。授業の流れは、説明→知識クイズ→教える→質問→教える(補足)だった。授業内容はCTG, 血液不適合妊娠, 筋肉注射の実施(針の長さ, 物品説明→ペアで説明)などであった。



授業の様子



授業で使用されていた資料Ⅲ。

### 考察

#### 教育について

勉強や就職において、選択肢が広いと感じた。特に gap year があり、1年間世界中を旅することにより、自分の興味や関心がどこにあるか見つけることができると考えた。さらに、大学入学後に学びたい分野が違うと感じた時は、他学部へ編入して、新たな分野を学ぶことができる。さらに、会話を通して、「関心があることに進むといい、あなたならできるよ」という考えを持っていると感じた。表と研修内容3より物品は病院で実際に使用されているものを中身のみ水に変更して教育現場で使用していた。臨床現場のものを学生から使用することで臨床現場に出た時に手順や投与方法を習得しやすいと考える。

#### 英語力

血液型不適合妊娠など日本で学習した内容は英語で理解することができた。しかし、教育プログラムなど日本語での

知識が薄い内容は理解することができなかった。よって、まずは日本で看護や医療に関係する内容を勉強する必要があると実感した。

### おわりに

今回、フリンダース大学で看護を学習できた。同時に医療の基礎知識がないと英語の学習は難しいと感じた。まずは、日本で国家試験合格のための勉強や臨床現場で活用できる技術や知識を身につける。また、現地の学生や先生との交流や今回の留学に同行した大学院生と会話することで、自分はない考え方や勉強の方法を知ることができた。今回の経験を就活や勉強、臨床現場で活かしていく。

### (2) 国立大学病院長会議将来像実現化WG国際化担当者会議の参加

上記会議に2024年12月2日にオンラインにて参加した。

「将来像実現化行動計画2024」の取り組み状況について各提言の主担当校から、資料及び各校画面共有された発表資料に基づき「将来像実現化行動計画2024」の取り組み状況について説明があり、また、それを受けて補足説明及び意見交換が以下のおりであった。取り組み状況については承認され、その内容を踏まえて「将来像実現化 年次報告2024/行動計画2025」を作成することとなった。

様々な提言の中、三重大学医学部からは、国際医療支援センター長（成島）が、人材、技術、システムのアウトバウンドに関わる提言について（医療技術・システムの海外展開における事務・サポート体制等に関する報告）を行った。

インバウンドの増加に伴い、外国人旅行者による医療費未払い事例発生リスクが高まっている。数千万円の未払金発生となりうる事例も起きた。行政が外国旅行者に保険加入を義務付けるなど、検討が必要との報告があった。

### (3) 三重県国際交流財団への講師依頼協力

約3000人/年ずつ増加傾向にある外国人住民の方が安心して三重県内の病院へ受診できる体制を構築するため、毎年三重国際交流財団にて開かれている医療通訳者育成研修会に11月10日、矢野裕先生に講義をしていただいた。とても分かりやすい資料の作成と、受講者からの多くの質問にも、丁寧に対応していただいた。

### (4) カジェタノ・エレディア大学（ペルー）本学医学部表敬訪問10月10日

カジェタノ・エレディア大学（ペルー）のエンリケ・カスタニェダ学長、ルイス・エスピノサ・アギラール在名古屋ペルー総領事館総領事が本学医学部を訪問された。本学からは、平山雅浩医学部長、金子聡国際交流センター長/副学長（広報・国際・環境担当）、福録恵子国際交流副センター長/特命副学長（国際交流担当）、医学部 成島三長教授、高尾仁二教授、谷村晋教授、アラウコ マリア医療通訳士が出席。会談では、カジェタノ・エレディア大学の紹介も交え、今後の更なる交流の活発化に向けて、様々な意見交換を行った。



## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

### (5) 三重大学グローバルアンバサダー更新

3名の方を更新し、下記の先生方に引き続きグローバルアンバサダーとしてご活躍いただくこととなった。

バンダ ハンシニ チヘナ：University Teaching Hospital in Zambia  
ジェーン チャンダ カブエ：National Heart Hospital,Lusaka,Zambia  
成 憲武 セイ ケンプ：延辺大学医学部 循環器・高血圧内科  
チパイラ ジャクソン：レヴィ・ムワナワサ医科大学外科

### (6) ザンビアマイクロサージャリートレーニングセンター開所式開催2024年6月19日

三重大学医学部形成外科で臨床研修と大学院生をしていた、ザンビアで唯一の形成外科医師Banda先生に対して、今後現地でマイクロサージャリーの技術指導が行えるよう、四日市ロータリークラブおよび三重県岐阜県（D2630）のご支援の元、ザンビア大学教育病院内に、マイクロサージャリートレーニングセンターを設立することになり、セレモニーが2024年6月19日に行われた。三重大学医学部出身の小畑英慎先生（産婦人科） 松井法子先生（眼科） 成島三長（三重大学形成外科）が現地参加した。ザンビア大学学長、ザンビア大学医学部長 保健省大臣代理、在ザンビア日本大使館山口大使代理、Lusaka ロータリークラブPamela Pio (MTN Zambia) 四日市北ロータリークラブ松井法子先生（眼科）が主催者となり、現地50名web参加29名となった。

また、池田三重大学医学部附属病院長、伊藤正明三重大学学長からのメッセージ動画もいただいた。

- ① ルサカ・ロータリークラブ会長歓迎挨拶
- ② ロータリークラブD2630会長ビデオ挨拶
- ③ ザンビア大学学長挨拶
- ④ 三重大学医学部附属病院長池田智明教授と三重大学学長伊藤正明教授ビデオ挨拶
- ⑤ 日本大使館臨時代理大使閣下大湊氏→山口氏挨拶
- ⑥ 主賓シルビア・マセボ保健大臣代理挨拶
- ⑦ 医学部およびUTHの学部長による謝辞

寄付物品 手術用顕微鏡、実体顕微鏡、マイクロ機器、マイクロサージャリー糸針





## 5. 工学部・工学研究科

### (1) ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツイニング・プログラムの実施

(継続令和6年度)

本事業はハノイ工科大学（ベトナム）とのダブルデGREE・プログラムに準じた内容であり、「日本語ができる指導的技術者の育成」を目的に、日本コンソーシアム（幹事校：長岡技術科学大学）に加盟している6大学が協同で実施している。コンソーシアム参加大学の活動の一環で、2024年10月7日から11日の間にハノイ工科大学で、日本語での集中講義をおこなった（担当：中西）、現在2年次生である22期生（NUT22）の約40名を対象にして「工業力学」の講義を45分×18時限実施した。彼らは2026年4月に3年次編入学を目指す学年であり、日本の大学への編入学試験に合格した場合、来日後の3年次では、専門の講義が多数開講され、4年次進級に向けて多くの単位を修得する必要がある。そのため、来日後の講義内容を理解するための日本語能力向上を目的としている。

集中講義最終日には、大学説明会も開催され、2025年度4月に日本の大学への編入学を目指す3年次生（21期生、NUT21）と2年次学生に対して、各大学の担当者が詳細な大学説明を日本語で行った。研究紹介、奨学金制度、そして留学生の日常の様子などに関して、日本語での説明を行った。各大学から参加者全員への説明の後、幹事大学である長岡技術科学大学から2025年



集中講義の様子



大学説明ブース

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

度の編入学試験に関する説明があった。その後、写真のように、各大学のブースに分かれて興味のある学生に対して、さらなる詳細な説明をおこなった。本学の様子をしっかりと理解してもらうために、一部の説明や質問への回答等に関して、ベトナム語でのサポートを本学のKHOA君に依頼した。

### (2) 海外短期インターンシップ

本年度で9回目となる海外短期インターンシップ事業は、タイとベトナムの二カ国でそれぞれ8名ずつ、計16名の参加者で実施された。これまでと同様に三重県内に本社を置く企業の各国事業所やグループ企業を巡る研修プログラムを特徴とし、海外研修として、また、企業研修として、大学内の生活では得難い経験を提供した。実際に参加した個人からは、以下のような意識の変化や気づきを得たことが報告された。

- ① 県内企業の活動への理解と魅力の発見
- ② 企業が果たすべき役割とグローバルな視点による課題解決の在り方
- ③ 実際に海外で活躍しているグローバル人材の考え方や働き方
- ④ 文化的背景と労働従事者の特徴、日本における労働環境との違い
- ⑤ 更なる海外研修や国外における労働への興味の増進や動機付け

参加学生の地域企業への理解促進と海外研修への準備のために、12月末から1月中旬に、企業の活動に関する説明や、研修地に行く上で必要な事前知識、研修中の心構えに関する講話などの事前研修が行われた。その後、2月末に10日間（ベトナム研修参加者は前泊を含めて11日間）の海外研修が行われた。さらに、国内の関連企業の方々を招いた研修成果報告会を年度が切り替わった5月下旬に実施し、関連企業様への報告と工学部内における本事業及びその目的としての地域企業・グローバル人材輩出の機運を高める。

#### 研修先企業一覧

タイ	ヤマモリ（株）、（株）安永、住友電装（株）、（株）百五銀行、日本トランスシティ（株）
ベトナム	エバ工業（株）、住友電装（株）



タイ研修先企業における研修の様子

## 6, 生物資源学部・生物資源学研究科

### (1) 各種JICA教育プログラムの実施

今年度は4月の段階で食料安全保障のための農学ネットワーク（Agri-Net: Agriculture Studies Networks for Food Security）、アフリカ域を対象としたABEイニシアティブ事業（Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for Youth）、それぞれ1名、SDGsグローバルリーダー（SDGs Global Leader）4名の正規課程学生が在籍し、研究室での研究や三重大学内の国際交流関係のイベントに積極的に参加しているほか、全国の大学との共通科目へ参加した。9月にAgri-Net、ABE、SDGsの各1名が修了・帰国して10月以降はSDGsの3名となったが、これからも実績を積み重ね、「JICA開発大学院連携」による教育プログラムにより多くの途上国留学生が本研究科で学ぶことになる。このほか、三重県内から経験者を招聘して青年海外協力隊派遣のセミナーを開催し、参加学生に大変好評であった。現在、本学部・研究科からの学生の派遣のための覚書を締結し、派遣手続きを進めている。

### (2) インドネシアのパジャジャラン大学（UNPAD）からの講師の受入・

#### スリウィジャヤ大学（UNSRI）への講師の派遣

本年度創設されたMIE-U国際交流協定校外国人若手教員受入れプログラムの最初の招へい者としてインドネシアのパジャジャラン大学（UNPAD）より、Dina Oktavia 博士を本学国際交流センター所属の講師の立場で受入れ、生物資源学部および大学院向けの授業を分担いただいた。これらの授業は英語で行われたが、留学生だけでなく、日本人学生にとってもDina博士の分かりやすい英語は大変好評であった。また、UNSRI、UNPADからのダブルディグリー（DD）プログラムの学生、交換留学生を始め、生物資源学研究科の各留学生にとっての良き相談役としての役割を果たしていただいた。プログラムの学生にとって、新渡日から1年という短期間で成果を上げて修士論文を仕上げるといったプレッシャーのかかる環境においてDina博士の存在は大きかったと伺っている。一方、12月上旬にスリウィジャヤ大学（UNSRI）に兼任教授として教員1名が訪問し、約100名を対象に集中講義を行ったほか、学部および修士課程の対面での卒業・修了検定に参加した。



スリウィジャヤ大学での集中講義後の様子



Dina 講師の津市立香良洲小学校での国際交流アクティビティ

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

### (3) 「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」による留学生の受入

2022年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に工学研究科と共同で提案した「生物資源学と工学からのアプローチによる持続可能な地域と世界の構築をリードする研究人材の展開」が採択されており、3年間に渡って、重点地域である東南アジア各国を中心とする協定校から、8名が生物資源学研究科と工学研究科の博士後期課程へ入学している。2024年度は生物資源学研究科にフィリピンのセントラルルソン州立大学（2名、1名修士は三重大学）およびマレーシアのプトラマレーシア大学から計3名が入学した。先行する特別プログラムと同じく、各々の専門領域において高度な研究成果が期待される。加えて三重大学の強みである実践的な環境教育と国内企業におけるインターンシップに取り組み、幅広い視点と地域貢献の方策について理解を深めるものである。

### (4) 生物資源総合科学コース1年生の協定校派遣

生物資源学部の改組により新たに創設された生物資源総合科学コース（総合コース）は、所属する1年生のうち29名をマレーシアのトレンガヌ大学、2名をタイのタマサート大学に研修派遣した。トレンガヌのプログラムはJASSOの協定派遣プログラムの助成に加え、本学の「三重から世界へ！」学生海外派遣事業、三重大学国際交流事業経費助成の支援も受け、学生負担を最小限とし、海洋生物実習、環境保全実習、熱帯農業実習など現地の大学生向け実習を英語で受講することができた。一方、タマサートのプログラムでは相手方大学からの奨学金提供があり、こちらも学生負担を最小限に抑えて研究室にインターンシップの形で入室し、熱帯農業実習、熱帯園芸学実習、市場調査を少人数で行うことができた。このように、外部資金の導入に加えて学内からの助成もいただくことで学生に早い段階から英語を使った海外経験を積み、広い視野で研究を行う下地を形成することができている。



マレーシアでのウミガメ保護のための活動



タイでの市場調査

### (5) 短期招へい教員2名の受入

三重大学外国人教員短期招へいプログラムの助成を得て、バングラディシュ農業大学より Mohammad Raihanul Islam 教授をお呼びして、水利施設工学演習などの授業の一部をご担当いただき、学生指導および研究紹介を行うとともに、大学院の講義で国際的な最新の水利施設工学の知見を紹介していただいた。学生らは、海外での環境汚染等を切実に感じた等の感想を述べており、大変有意義であった。

同プログラムの助成により、フィジーの南太平洋大学より Rajesh Prasad 博士をお呼びして浅海増殖学演習（博士前期）、種苗生産技術論（博士後期）などの授業で、南太平洋域における水産養殖業の現状とその発展の歴史や今後の展望を中心に教授いただいた。このほか、三重県内の公設研究機関を訪問するなど大変親しみやすい性格とも相まって、本学および三重県地域との交流を深められた。

## 7. 地域イノベーション学研究科

### (1) 第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2024)

地域イノベーション学研究科では、2009年の研究科発足以来、地域イノベーション学に関する研究者や学生が集まる国際ワークショップを本研究科主催で毎年開催している。本年度は「The 16th International Workshop on Regional Innovation Studies (IWRIS2024)：第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ」を2024年10月17日と18日の2日間で開催した。

今回のワークショップでは、のべ160名の研究者・大学院生が参加し、真理大学（台湾）のChia-Hui Huang教授、漢陽大学校メディカルセンター（韓国）のWon-Cheol Kim博士、マレーシアペルリス大学（マレーシア）のZuradzman Mohamad Razlan准教授、パジャジャラン大学（インドネシア）のGemilang Lara Utama准教授による4つの招待講演と5つの基調講演が行われた。一般研究発表は5つのセッション（1: Engineering I for Regional Innovation, 2: Social Engineering I for Regional Innovation, 3: Social Engineering II for Regional Innovation, 4: Social Engineering III for Regional Innovation, 5: Engineering II for Regional Innovation）



招待講演の様子



大学院生による発表と質疑



集合写真（1日目）

## II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

では19の一般研究発表が行われ、多様な発表と質疑が行われた。また1日目終了後にはバンケットも開催され、活発な交流が行われた。

今回のIWRIS2024一般研究発表に対しては、アブストラクト及びフルペーパーの査読と英語での発表を評価した結果、2名の発表者に最優秀論文賞、2名の発表者に優秀論文賞、3名の発表者に奨励賞を授与した。



表彰式

本国際ワークショップは、三重地域圏の学際的研究、国際的な共同研究を促進するために、大学の教員と学生、教員と教員、学生と学生が英語で意見交流する場を提供することを目的に実施している。学生が英語で研究論文を執筆し、英語で研究発表する経験をし、研究と国際交流に対するモチベーションを向上させ、地域社会を牽引する国際的に活躍する人材の育成を目指している。本研究科の学生にとっては、この国際ワークショップは英語科目の単位認定に位置づけられており、単に会場の準備や会場係としてワークショップの運営に関わるだけでなく、発表に対して英語で質問をすることで、英語を使ったコミュニケーションの練習の場としても非常に意義深いものとなっている。

来年度以降も外国の大学の研究者を招へいし、同じ時期に同じ形式で開催することとしている。なお、4年後には第20回を記念して開催すること検討しており、同ワークショップの充実を図ることが本研究科における教育・研究の発展・充実に繋がるものとして取り組んでいる。この事業によって、本学と海外の大学とのより深い相互理解が進展し、よりふさわしい博士前期課程と博士後期課程の学生を入学させることが可能となることを確信している。



# 国際交流センターの活動

## 1. 留学生の受入れ

### (1) 協定校からの交換留学生

国際交流センターでは、交流協定のある海外の大学からの推薦により、4月または10月に留学生を受け入れており、最長1年間滞在する。

### (2) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）

大使館推薦もしくは大学推薦による国費研究留学生のためのプログラムである。2023年度後期～2024年度前期は、クロアチア、ベトナム、インドネシア、タイ、中国から各1名の計5名を受け入れた。指導教員の下でそれぞれのテーマに基づいて研究を進めた。研究成果は2月に中間発表会、7月に研究発表会で披露され、成果は『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集XXI』として発行された。

#### 日本語・日本文化研修留学生の研究内容一覧

出身国（出身大学）	研究タイトル	指導教員
クロアチア （ザグレブ大学）	クロアチアの日本語授業における母語使用の可能性	正路 真一 （国際交流センター助教）
ベトナム （ホーチミン市師範大学）	日本語の慣用句に表現される文化的特徴の研究	松岡知津子 （国際交流センター准教授）
インドネシア （パジャジャラン大学）	三重弁における年齢差の実態調査：否定形に焦点を当てて	正路 真一 （国際交流センター助教）
タイ （タマサート大学）	日本およびタイにおける性と生殖に関する健康と権利の比較	松岡知津子 （国際交流センター准教授）
中国 （江蘇大学）	中国と日本の大学生の将来に向けてのキャリア設計の比較	福岡昌子／正路真一 （国際交流センター教授／助教）

## 2. 留学生対象科目・プログラム

国際交流センターの教育活動は、授業と海外（語学等）研修に分かれ、授業は主に留学生が対象の「A. 日本語教育コース」と、英語で学ぶ「B. 国際キャリアアップコース」の2つに分けられる。「A. 日本語教育コース」は、留学生が日本語で受講するクラスが中心で、全学の留学生向けに日本語及び日本文化に関する教育を提供するものである。また、「B. 国際キャリアアップコース」は、日本人学生と留学生が共に英語で学べる国際共修授業を開講している。また、いくつかの海外研修は、「B. 国際キャリアアップコース」の授業として開講されているが（Tri-U, ベトナム・ワールドスタディ）、授業以外にも複数の海外研修が実施されている（ニュージーランド、アメリカ合衆国、マレーシア）。

### Ⅲ. 国際交流センターの活動

#### 国際交流センター開講科目一覧（2024年度）CIER Class List

1. 語学の科目は以下のとおりです。/The language classes are as follows;

学期/Semester	科目名/Subject s	Subject s (English)	minutes per week
前期	初級集中Ⅰ 総合A	Intensive BasicⅠ Comprehensive A	90min.
前期	初級集中Ⅰ 文法A	Intensive BasicⅠ Grammar A	180min.
前期	初級集中Ⅱ 総合A	Intensive BasicⅡ Comprehensive A	90min.
前期	初級集中Ⅱ 文法A	Intensive BasicⅡ Grammar A	180min.
前期	初級集中Ⅲ 総合A	Intensive BasicⅢ Comprehensive A	90min.
前期	初級集中Ⅲ 文法A	Intensive BasicⅢ Grammar A	180min.
前期	中級Ⅱ 上級へのステップ・アップクラス	Step-up to Advanced Class	90min.
前期	上級 総合日本語	Advanced Comprehensive Japanese	90min.
前期	中級Ⅱ 会話A	IntermediateⅡ Conversation A	90min.
前期	中級Ⅰ 会話A	IntermediateⅠ Conversation A	90min.
前期	中級Ⅰ 作文A	IntermediateⅠ Writing A	90min.
前期	中級Ⅰ 聴解A	IntermediateⅠ Listening A	90min.
前期	中級Ⅰ 文法・読解A	IntermediateⅠ Grammar and Reading A	90min.
前期	中級Ⅱ 読解	IntermediateⅡ Reading	90min.
前期	中級Ⅱ 文法A	IntermediateⅡ Grammar A	90min.
前期	初級集中Ⅲ 中級へのステップ・アップクラスA	Step-up to Intermediate Class A	90min.
前期	日本語・日本文化演習A	Japanese & Culture Seminar A	90min.
前期	中級Ⅱ 日本事情ⅠA(三重の社会と文化)	Understanding Japan ⅠA(The Society and Culture of Mie)	90min.
前期	上級 日本事情ⅢA(留学生と学ぶ日本)	Understanding Japan ⅢA(Learning with International Students)	90min.
前期	初級集中Ⅰ 文字・語彙ⅠA	Character and Vocabulary ⅠA	90min.
前期	中級Ⅱ 文字・語彙ⅡA	Character and Vocabulary ⅡA	90min.
後期	初級集中Ⅰ 総合B	Intensive BasicⅠ Comprehensive B	90min.
後期	初級集中Ⅰ 文法B	Intensive BasicⅠ Grammar B	180min.
後期	初級集中Ⅱ 総合B	Intensive BasicⅡ Comprehensive B	90min.
後期	初級集中Ⅱ 文法B	Intensive BasicⅡ Grammar B	180min.
後期	初級集中Ⅲ 総合B	Intensive BasicⅢ Comprehensive B	90min.
後期	初級集中Ⅲ 文法B	Intensive BasicⅢ Grammar B	180min.
後期	中級Ⅰ 会話B	IntermediateⅠ Conversation B	90min.
後期	中級Ⅱ 会話B	IntermediateⅡ Conversation B	90min.
後期	中級Ⅰ 作文B	IntermediateⅠ Writing B	90min.
後期	中級Ⅰ 聴解B	IntermediateⅠ Listening B	90min.
後期	中級Ⅰ 文法・読解B	IntermediateⅠ Grammar and Reading B	90min.
後期	中級Ⅱ 作文	IntermediateⅡ Writing	90min.
後期	中級Ⅱ 文法B	IntermediateⅡ Grammar B	90min.
後期	初級集中Ⅲ 中級へのステップ・アップクラスB	Step-up to Intermediate Class B	90min.
後期	日本語・日本文化演習B	Japanese & Culture Seminar B	90min.
後期	中級Ⅱ 日本事情ⅠB(三重の社会と文化)	Understanding Japan ⅠB(The Society and Culture of Mie)	90min.
後期	上級 日本事情ⅢB(留学生と学ぶ日本)	Understanding Japan ⅢB(Learning with International Students)	90min.
後期	初級集中Ⅰ 文字・語彙ⅠB	Character and Vocabulary ⅠB	90min.
後期	中級Ⅱ 文字・語彙ⅡB	Character and Vocabulary ⅡB	90min.

2. 語学以外の科目は以下のとおりです。/Other classes are as follows;

学期/Semester	科目名 Subject s	Subject s (English)	minutes per week
前期	英語でエッセイA	English Short Composition A	90min.
前期	三重の社会と文化A	Society and Culture of Mie A	90min.
前期	近代日本文化史A	History of Modern Japanese Culture A	90min.
前期	環境問題と社会A	Environmental Issues and Society A	90min.
後期	英語でエッセイB	English Short Composition B	90min.
後期	三重の社会と文化B	Society and Culture of Mie B	90min.
後期	近代日本文化史B	History of Modern Japanese Culture B	90min.
後期	環境問題と社会B	Environmental Issues and Society B	90min.
後期	環境科学と持続可能性	Environmental science and sustainability	90min.

#### A. 日本語教育コース

##### (1) 日本語科目

国際交流センターが開講する日本語教育コースのクラスを受講するために、外国人留学生は原則として前期3月、後期9月に実施する日本語プレースメントテストを受け、初級基礎Ⅰ～上級までの6つのレベルに振り分けられる。日本語プレースメントテストは、本学独自の試験問題を作成しオンラインで実施した。

##### (2) 市民開放授業

2024年度は、国際交流センターが開講する授業のうち、前期20科目・後期18科目の計38科目を一般市民に開放し、2名が前期に受講した。

##### (3) 基礎日本語講座

この講座は、外国人留学生だけでなく研究者として来日し日本語の授業を学ぶ時間がない外国人や、その家族も対象とし、日本で生活するうえで最低限必要な会話力をつけることを目的としたものである。年に2回（春・秋）開講され、全5回無料で受講できる。

#### B. 国際キャリアアップコース

##### (1) 英語による授業

英語で行われる授業の多くは共通教育センター開放授業であり、留学生だけでなく三重大学の学生は誰でも履修可能で、共通教育の単位が修得できる。

##### (2) 海外短期研修（国際交流センター実施）

2024年度に国際交流センター主催で実施した海外短期研修は以下のとおりである。

###### ① Tri-U 国際ジョイントセミナー & シンポジウム

開催期間：2024年11月11日～15日

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）、広西大学（中国）、IPB大学（インドネシア）、メージョー大学（タイ）の6大学が交代でホスト校を務め開催する英語による研究論文発表を中心とした国際交流プログラムである。1994年以来30回目となる2024年度は、11月11日から15日に江蘇大学で開催された。本学からは、学生11名と教職員8名の計19名が口頭発表やワークショップに参加した。



###### ② ベトナム・フィールドスタディ（ベトナム）

開催期間：2025年2月16日～27日

三重大学生とホーチミン市師範大学生によるベトナム・フィールドスタディ2024が行われた。参加学生は、三重大学から11名、ホーチミン市師範大学から17名であり、三重大学生と引率教員2名が、ホーチミン市師範大学を訪問した。



### Ⅲ. 国際交流センターの活動

#### ③ ワイカト大学語学研修（ニュージーランド）

開催期間：（夏期）3週間コース：2024年8月24日～9月14日  
5週間コース：2024年8月24日～9月28日  
（春期）3週間コース：2025年2月21日～3月15日  
5週間コース：2025年2月21日～3月30日

ニュージーランド国立ワイカト大学にて英語研修が行われた。夏期4名、春期8名の学生が参加し、現地でホームステイをしながら、3週間または5週間の英語研修を受講し、現地での生活を楽しんだ。



#### ④ サウスカロライナ大学語学研修（アメリカ）

開催期間：2024年8月19日～9月27日

アメリカ合衆国のサウスカロライナ大学で英語研修が行われた。1名の学生が参加し、世界各国から集まった学生たちとともに、6週間の英語集中講座を受講した。



#### ⑤ タチ大学英語研修（マレーシア）

開催期間：（夏期）2024年8月14日～9月3日  
（春期）2025年2月8日～2月26日

マレーシアのタチ大学にて英語研修が行われた。夏期20名、春期12名の学生が参加し、3週間の滞在で現地学生とのバディ制度を通して、文化体験、自然体験、伝統工芸体験、ナイトマーケットなどを楽しんだ。



## 3. 三重大学国際教育交流活動

### (1) 国際交流Days

国際交流センターでは毎年12月頃に「国際交流Days」と称し、留学生と三重大学生が交流する場を提供するなど、学生らが国際感覚を身につけるイベントを企画・実施している。

2024年度は、以下のとおり延べ249人がイベントに参加した。

日付	イベント	参加人数
12/7	三重大学駅伝大会	5
12/8	スポーツ大会	18
12/10	お菓子パーティー（ドイツDAY）	41
12/12	留学生書道体験 Let's Enjoy SHODO	17
12/18	お菓子パーティー（マレーシアDAY）	40
2025/1/8	カルタ取り&福笑い体験	55
1/9	お菓子パーティー（中国DAY）	37
1/14	お菓子パーティー（ブルガリアDAY）	31
1/27	マジックショー	5

【スポーツ大会】

生物資源学研究所の王秀崙教授主催のもと、本学留学生18名、三重県華僑華人総会会員13名を含む合計32名がソフトバレーボールとバドミントンの2種目を楽しんだ。スポーツを通して互いに親睦を深める良い機会となった。



【留学生書道体験 “Let's enjoy SHODO”】

書道サークル5名のととても丁寧な指導のもと17名の留学生が日本文化の一つである書道を体験した。まず筆の持ち方や書道の基本である「とめ」「はね」「はらい」などを学んだ後、自分で選んだ漢字を何度も書いて練習した。初めて毛筆に挑戦する学生も多く、最初は「難しい!!」と苦戦していたが、練習を重ねるうちにみるみる上達した。最後に来年のカレンダーに自分の好きな漢字を書き、それぞれ立派な作品を仕上げることができた。



【お菓子パーティ（ドイツDAY・マレーシアDAY・中国DAY・ブルガリアDAY）】

各日、テーマとなる国・地域出身の留学生が母国の言語や食事などの文化を紹介した後、所縁のあるお菓子を食べながら交流を行った。



【カルタ取り&福笑い体験】

参加者は日本語の学修レベルに合わせたグループに分かれて、二つの遊びを楽しんだ。福笑いでは、目隠しした人に日本語で位置を教えるのに苦戦しつつ、出来上がった想定外の「顔」が完成するたびに歓声が上がっていた。カルタ取りは畳の和室で行われ、留学生は日本のお正月の雰囲気を感じながら札を取り合い、普段の日本語学習の成果を発揮していた。





# 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

## 1. 留学生支援

### (1) 在留資格認定証明書代理申請

在留資格認定証明書（COE）交付申請業務を外部業者に委託し、留学生のビザ取得を支援した。

### (2) 新渡日留学生オリエンテーションの実施

例年新渡日の留学生を対象としたオリエンテーションを4月と10月に実施した。留学生ガイドブック（日・英）を用い、三重大学での学生生活を送るための基本的なルール、日本での生活ルール、寮生活について日本語と英語でガイダンスを行った。

### (3) 私費外国人特待留学生制度

本学独自の取組として2019年度に新設された。本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対し入学料及び授業料の全学免除を実施しており、2024年度は25名の留学生を特待生として支援した。

### (4) 奨学金に関する支援

<三重大学独自の奨学金>

#### ・三重大学国際交流特別奨学生制度

海外協定大学から短期留学する外国人留学生の奨学事業

協定大学からの交換留学生を対象として、月額2万円の奨学金を支給しており、2024年度は28名の交換留学生を奨学生として支援した。

#### ・梅林正直三重大学名誉教授タイ人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀なタイ人留学生に対し奨学金を支給しているが、2024年度は、該当者がいなかった。

<各種民間財団等の奨学金>

各種奨学財団等からの募集に対し、留学生委員会において選考し、国際交流チームにて申請手続きを行っている。2023年度の受給実績は以下のとおり。

奨学金名	受給人数（人）
文部科学省外国人留学生学習奨励費	8
ジャパンマテリアル国際奨学財団	1
本田弁二郎留学生技術者育成奨学基金	3
ロータリー米山記念奨学会	4
イオンスカラシップ	1
JEES留学生奨学金（修学）	1
JEES日本語修学支援奨学金	1
MHIベトナム奨学金	1

### (5) 留学生への就職支援

日本で就職を希望している留学生を対象とした「外国人留学生の就活セミナー2024」を6月、10月、11月の3度開催した。それぞれ「就活のスケジュール」、「履歴書の書き方」、「面接の受け方」をテーマとし、延べ参加者数は20人となった。

<インターンシップ>

2025年3月～4月に三重県内の企業3社でインターンシップが実施され、計6名の留学生が参加した。

<企業見学会>

2025年2月と3月に、三重県に本社を持つ企業や工場への見学会を3回実施し、14か国・地域から集まった留学生47名が参加した。

### **(6) 三重地域留学生交流推進会議の開催**

三重県内における留学生の円滑な受け入れの促進と交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するため発足された会議で、2020年度以降はオンラインにて7月と2月に会議を開催し、参加各機関の留学生支援の取組状況等についての情報交換や、地域における就職支援等、多岐に渡り活発な意見交換等を行っている。

### **(7) 日本人レジデントアシスタント (RA)**

留学生寄宿舎のシェアルームには日本人学生がレジデントアシスタント (RA) として入居しており、国際交流会館および留学生寄宿舎に入居する留学生と日々交流しながら、生活面におけるさまざまなサポートを行った。

### **(8) チューター制度**

チューター学生が新渡日留学生に日常生活に慣れない渡日後3か月間、学校生活を始めるにあたってのサポート制度です。指導教員の先生が主体となって留学生とチューター学生のマッチングを行い、国際交流チームがマッチング補助を行っている。2024年度前期は、22名・後期は57名の留学生が本制度を利用した。

### **(9) 留学生住宅総合補償 (機関保証制度)**

留学生が民間宿舎へ入居するにあたり、保証人を探す困難さと保証人の精神的・経済的負担を軽減し、円滑な入居を支援する制度である。留学生がこの制度に加入することで、三重大学が機関保証人となる。2024年度は31名の加入があった。

### **(10) 留学生研修旅行**

新渡日の外国人留学生を対象に、日本文化を体験することを目的とした研修旅行を年に2回実施している。2024年度は5月に伊勢市を、10月には伊賀市を訪問した。

<5月 伊勢市>

10カ国・地域の留学生44名が伊勢を訪れ、伊勢神宮参拝やおかげ横丁を散策した後、伊勢志摩スカイライン朝熊山の展望台から伊勢平野と伊勢湾の絶景を楽しんだ。



伊勢志摩スカイライン朝熊山 山頂広場 天空のポスト前にて

## IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

<10月 伊賀市>

12カ国・地域の留学生71名が伊賀市の上野天神祭に参加し、地元の方々と共に引き手となってだんじり巡行を体験した。また、上野高校のボランティア学生の案内で街並みを散策しながら交流を行った。



だんじり巡行

## 2. 海外留学支援

### (1) 交換留学生の授業料免除制度

本学から協定校に交換留学生として派遣される学生について、協定に基づき、派遣先の大学で授業料を納める必要がある場合、本学の授業料を免除することとしている。

### (2) 交換留学

年3回の交換留学期間選考会開催に先立ち、4月、8月、12月に交換留学説明会を開催し、計約80名の学生からの参加申込みがあった。各説明会では留学経験者からの報告のほか、奨学金情報や教員にも参加してもらい各協定校の強みについて情報を共有してもらうなど、参加者に留学を現実的にイメージとして捉えることができるような取組を行い、その結果今年度留学を開始した学生数はコロナ禍以降最大の20名を超える結果となった。

### (3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第16期採択結果

2024年度（第16期）<全国コース>

No.	申請コース	学部	学年	受入機関	採択期間
1	STEAMコース	工研	M2	ハイデルベルク大学（ドイツ）	2024年9月1日～2025年2月28日（6か月）

### (4) 三重大学学生海外チャレンジ応援事業

学生海外チャレンジ応援事業は、学業やキャリアの達成のため、世界に飛び出し、学業の達成やキャリア形成のための活動にチャレンジする学生を応援する三重大学独自の奨学金制度。学部学生が自分の専門の学修やキャリア形成に欠かせないと考える、オリジナルな海外渡航計画を作って申請する。2024年度採用者には渡航先及び滞在日数に応じて最大40万円の奨学金を支給した。さらに経済的に困難な学生には10万円の追加支給が行われた。

これまでの採用者は延べ63人（※1）を数え、26カ国・地域（※2）への渡航を実現させている。

※1 採用後に辞退した者も含む。

#### IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

※2 アイルランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、ガーナ、カンボジア、スペイン、タイ、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、フィリピン、フランス、ブルガリア、ブルネイ王国、ベトナム、ペルー、マレーシア、ラオス、韓国、台湾

No.	部局	計画タイトル	渡航先
1	人文学部	地雷による経済的影響と地域開発	カンボジア
2	医学部	カンボジアで国際支援の第一歩	カンボジア
3	医学部	発展途上国の障がい者福祉・医療の現状を知る	ガーナ
4	医学部	ガーナの公衆衛生と医療ボランティア	ガーナ
5	工学部	マルチフィジックスを援用したCFD最適化技術の修得	米国
6	工学部	電気電子工学に基づくスマートファクトリー実現に向けたAI技術の学修	ブルガリア
7	工学部	最先端のロボット支援リハビリテーションに関する学修	米国
8	工学部	生物由来のアルゴリズムを用いた最先端の最適化技術の習得	米国
9	工学部	コンピューター社会の発展と女性研究者の増加	インドネシア
10	工学部	バンドン工科大学での大学院までの3年間を見越した 研究テーマについての共同実験	インドネシア
11	工学部	ブルネイ工科大学におけるバイオポリマー研究留学	ブルネイ王国
12	工学部	東南アジアにおけるゴミに関するサステナビリティの調査	マレーシア
13	工学部	マレーシアと日本における環境や文化に対する意識比較	マレーシア
14	工学部	フードとコスメに関する環境意識の違い	台湾
15	工学部	マレーシアのダイバーシティ・インクルージョンについて学ぶ	マレーシア
16	工学部	脱炭素化社会に向けての日本、マレーシア、タイ、オーストラリアの比較	オーストラリア
17	工学部	イギリスの「医療DX」に関する取り組みを調査する	英国
18	生物資源学部	東南アジア養殖現場への表皮プロバイオティクス技術の応用 ー 緑色蛍光タンパク質を利用した新規有用微生物の探索 ー	インドネシア
19	生物資源学部	アグリツーリズムによる持続可能な観光業 ～ カッパドキアにおける先進的な観光施設の立ち上げ ～	トルコ共和国
20	生物資源学部	ヨーロッパ3か国から学ぶ有機農業	フランス、イタリア、オーストリア
21	生物資源学部	自給自足の農場経営に携わって持続可能な社会の実現を目指す	イタリア
22	生物資源学部	児童養護施設での子供たちとの交流及び持続可能な施設を目指した地域開発	マレーシア
23	生物資源学部	チベット文化と社会開発が森林に与える影響を学ぶ	インド
24	生物資源学部	山岳地域の生態系を守るーアイルランドの環境に対する意識の調査ー	アイルランド
25	生物資源学部	パーマカルチャーを体感して「生きる力」を身につける	オーストラリア
26	生物資源学部	ニュージーランドで果樹の有機栽培について学ぶ	ニュージーランド
※	生物資源学部	インドネシア熱帯海域由来の新規ラビリンチュラ類の探索	インドネシア
※	生物資源学部	持続可能な農業を海外の有機農業から学ぶ	ノルウェー

※採用後、辞退

### (5) 奨学金に関する支援

#### ① 三重大学国際交流特別奨学生制度

- ・外国の大学へ留学する学生への奨学事業  
協定大学への交換留学生を対象として15万円を支給している。2024年度は18名の学生を支援した。
- ・国際交流事業へ参加する学生への奨学事業  
学生が外国で行われる国際交流事業へ参加する場合、10万円を支給しており、2024年度は、Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムに参加する11名の学生を支援した。

#### ② 海外留学支援制度

2024年度日本学生支援機構の海外留学支援制度において、次のプログラムが採択された。

## IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

### <協定派遣>

プログラム名	対象学部	プログラム実施期間	派遣日数	支援人数
三重大学全学共通教育センター「国際理解実践1」海外研修プログラム	全学部	2025年2月15日～ 2025年3月8日	22日	14名
多文化共生社会を生きる力を養うニュージーランド研修	全学部全学科 全研究科	2024年8月24日～ 2025年3月31日	23日～ 39日	12名
多文化共生能力とアジア圏異文化の涵養に資するマレーシア短期留学と体験	全学部全学科 全研究科	2025年2月8日～ 2025年2月27日	20日	26名
アジア地域環境循環型社会に資する環境人材育成プログラム	全学部全学科 全研究科	2025年3月4日～ 2026年2月28日	362日	1名
ドイツ語／日本語ステップアッププログラム【みえハイム】 Mie - Heidelberg Mutual international student exchange program	全学部全学科 全研究科	2024年9月4日～ 2026年2月28日	151日～ 364日	6名
三重大学海外フィールドスタディ	全学部全学科 全研究科	2025年2月16日～ 2025年2月27日	12日	8名
ニュージーランドの教育改革とグローバル教育を学ぶ海外教育実地研修	教育学部 教職大学院	2025年3月1日～ 2025年3月17日	17日	12名
アフリカ・アジアを含む地球規模での高等教育機関との連携を基軸とする国際保健医療人材の育成	医学部医学科	2024年4月1日～ 2024年6月7日	16日～ 32日	31名
レイトスペシャライゼーションのための国内外における生物資源学と地域課題理解の実践活動	生物資源学部 生物資源学科	2024年9月9日～ 2024年9月24日	16日	12名

### <協定受入れ>

プログラム名	対象学部	プログラム実施期間	受入日数	支援人数
日本就職に資するマレーシアアチ大学優秀学生の受入れ	工学部	2024年4月1日～ 2025年3月17日	168日～ 173日	6名
アジアの成長を取り込み新しい生物資源学のリーダーを養成するインドネシア2大学とのダブルディグリープログラム	生物資源学研 究科	2024年10月1日～ 2025年9月25日	299日～ 360日	5名

## 3. 地域における国際化交流

### (1) 留学生の地域派遣

三重県内の教育機関等からの依頼を受け、以下のとおり国際交流行事等に延べ200名の留学生を派遣し、地域の学生等と交流を図り、地域の国際化に寄与した。

年月日	依頼元	依頼内容	留学生派遣人数
2024/7/7～	ホームステイ in 津	前期セカンドホームプログラム	10
2024/4/26～29	津市国際交流協会	ゴールデンウィークホームステイ	5
2024/5/25	松阪市観光協会	日本文化体験ツアー in 松阪	30
2024/7/20	鈴鹿サーキット	鈴鹿8耐特別ツアー	50
2024/7/29～8/5	公益財団法人 国際環境技術移転センター	地球環境塾 通訳ボランティア	2
2024/8/3	栗真町屋町	盆踊り大会	70
2024/10/27	津市国際交流協会	津市国際交流デー屋台村	5
2024/12/7	四日市大学	留学生日本語弁論大会	1
2024/12/7～	ホームステイ in 津	後期セカンドホームプログラム	10
2025/1/29	松阪子ども支援研究センター	多文化理解授業講師	2
2025/2/15	名古屋国税局	酒蔵・滝見学ツアー in 名張	15

### <2024年5月25日：日本文化体験ツアー in 松阪>

松阪で開催された「松阪撫子どんな花？祭り」に留学生が参加し、木版画や着物着付け体験、撫子献花式や撫子姫大



茶会に参加する等、多くの日本文化に触れ、貴重な体験をすることができた。また、地元の三重中学校・高等学校の生徒達とも街歩きを楽しみ、互いに交流を深めた。

<2024年8月3日：地域の盆踊り大会への参加（専称寺：津市栗真町屋町）>

津市 専称寺において開催された盆踊り大会に、本学の留学生および国際交流センター教員等、約70名が参加した。盆踊りは初めてという留学生が多い中、炭坑節、津音頭などを教えてもらいながら踊り、栗真町屋町の方々と楽しく交流を深めた。今回は、太鼓や踊りの練習に事前に参加させていただいた学生もおり、地域の子供たちと一緒に練習の成果を披露していた。



<2025年1月29日：留学生による日本の学校での多文化理解授業>

松阪市立第二小学校にて「多文化理解授業」が実施され、マレーシア、ドイツからの本学留学生2名が参加し、第3学年及び第4学年児童と交流した。このイベントは、松阪市子ども支援研究センター主催で、子ども達が留学生から母国の生活や文化を学び、認め合う意識を養うことを目的に毎年実施されている。2人は、それぞれの国の食文化や小学校生活などを写真を見せながら日本語で紹介した。

子供たちは「マレーシアもドイツも行ってみたいと思った」「それぞれの料理を食べてみたい」などたくさんの感想を述べ、外国の生活・文化に大変興味津々な様子が窺えた。



<2025年2月15日：酒蔵・滝見学ツアー in名張>

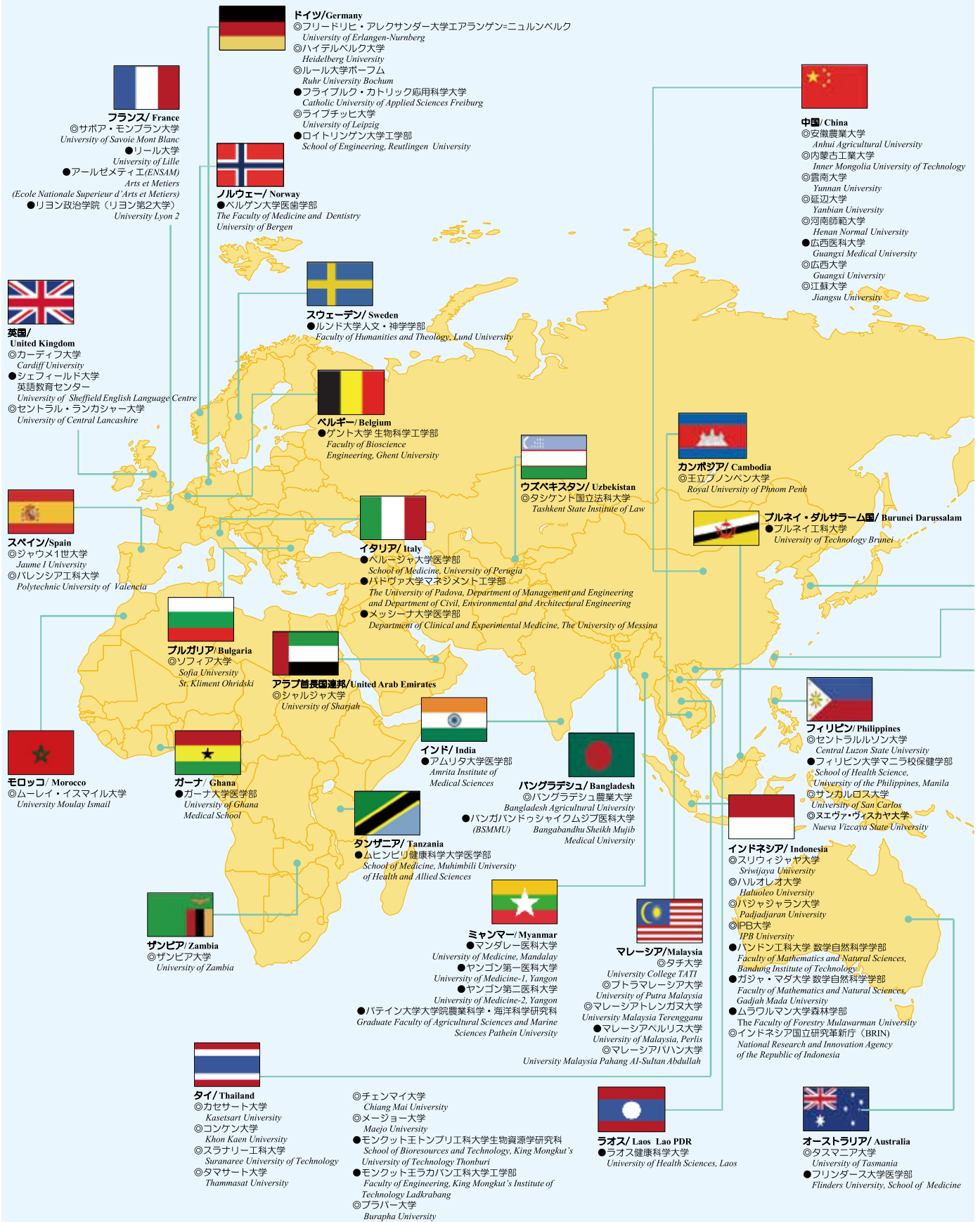
名古屋国税局主催で「酒蔵・滝見学ツアー in 名張」が実施され、15名の留学生が、明治時代から続く瀧自慢酒造株式会社を訪問し、伝統的造りを学んだ。

酒造では情緒ある酒蔵の中を見学し、もろみを発行させるタンクを長い櫂でかき混ぜる作業を実際に体験し、興味津々の様子であった。

最後は、6種類の日本酒とそれに合わせた料理のペアリングを楽しんだ。留学生からは「思っていたより飲みやすい」、「料理と合わせるとまろやかに感じる」など様々な感想が上がり、日本酒を味わいながら日本伝統に触れる貴重な機会となった。



## 1. 海外大学等との協定締結機関地図



# 国際交流協定締結機関 International Partner Institutions

- ◎江南大学  
Jiangnan University
- ◎上海海洋大学  
Shanghai Ocean University
- 上海交通大学医学院  
Shanghai Jiao Tong University School of Medicine
- ◎西安理工大学  
Xi'an University of Technology
- 清华大学工学部・工程力学学部  
Department of Energy and Power Engineering, Tsinghua University
- 浙江大学理学部  
College of Science, Zhejiang University
- ◎天津師範大学  
Tianjin Normal University
- 南開大学日本研究院  
Institute of Japanese Studies, Nankai University
- ◎南京工業大学  
Nanjing Tech University
- ◎北京外国語大学  
Beijing Foreign Studies University
- 北京理工大学外国語学院  
School of Foreign Languages, Beijing Institute of Technology
- 蘭州大学第二臨床医学院  
The Second Medical College of Lanzhou University
- ◎鄭州大学  
Zhengzhou University
- ◎華東政法大学  
East China University of Political Science and Law
- ◎吉林農業大学  
Jilin Agricultural University
- ◎上海外国語大学  
Shanghai International Studies University
- ◎中国国家留学基金管理委員会 (CSC)  
China Scholarship Council
- ◎南京農業大学  
Nanjing Agricultural University
- ◎南京林業大学  
Nanjing Forestry University

**大韓民国/Republic of Korea**

- ◎世宗大学校  
Sejong University
- ◎済州大学校  
Jeju National University
- ◎東国大学校  
Dongguk University
- 釜慶国立大学校水産科学学部・環境海洋学部  
College of Fisheries, College of Environmental and Marine Science and Technology, Pukyong National University

- ◎梨花女子大学校  
Ewha Womans University
- ◎中央大学校  
Chung-Ang University
- ◎啓明大学校  
Keimyung University
- ◎大邱教育大学校  
Daegu National University of Education
- ◎釜慶国立大学校  
Pukyong National University

**台湾/Taiwan**

- ◎国立高雄師範大学  
National Kaohsiung Normal University
- ◎真理大学  
Aletheia University
- ◎国立中山大学  
National Sun Yat-sen University
- ◎国立金門大学  
National Quemoy University
- ◎南台科技大学  
Southern Taiwan University of Science and Technology
- ◎国立台湾海洋大学  
National Taiwan Ocean University
- 国立成功大学 化学工学学科  
Department of Chemical Engineering, National Cheng Kung University
- ◎文藻外国語大学  
Wenzao Ursuline University of Languages
- ◎国立宜蘭大学  
National Ilan University

**アメリカ/United States of America**

- ◎ノースカロライナ大学ウィルミントン校  
University of North Carolina Wilmington
- ◎ハワイパシフィック大学  
Hawai'i Pacific University
- ロシントン大学医学部  
University of Washington, School of Medicine
- 東ワシントン大学経営・行政学部  
College of Business and Public Administration, Eastern Washington University
- メリーランド大学イースタンショア校  
School of Graduate Studies and Research, University of Maryland Eastern Shore

**ベトナム/Viet Nam**

- ◎外国貿易大学  
Foreign Trade University
- ◎カントー大学  
Can Tho University
- ◎ホーチミン市師範大学(教育大学)  
Ho Chi Minh City University of Education
- ベトナム科学技術院(VAST)エネルギー研究所(IES)  
Institute of Energy Science, Vietnam Academy of Science and Technology
- 科学教育大学ダナン大学  
The University of Danang - University of Science and Education
- ◎ベトナム国家大学ホーチミン校人文社会科学大学  
University of Social Sciences and Humanities, Viet Nam National University Ho Chi Minh City

**フィジー/Fiji**

- ◎フィジー国立大学  
Fiji National University
- ◎南太平洋大学  
The University of the South Pacific

**ペルー/Peru**

- ◎国立ラ・モリーナ農業大学  
La Molina National Agrarian University

**ニュージーランド/New Zealand**

- オー克兰大学教育・社会福祉学部  
Faculty of Education and Social Work, The University of Auckland
- ◎国立ワイカト大学  
The University of Waikato

**ブラジル/Brazil**

- ◎サンパウロ大学  
University of Sao Paulo

◎大学間協定締結機関  
25カ国・地域 83大学・機関  
University Level: 25 Countries/Areas, 83 Institutions

●学部間協定締結機関  
24カ国 44大学・機関  
Faculty Level: 24 Countries, 44 Institutions

**総協定大学数**  
34カ国・地域 127大学・機関  
Total of 34 Countries/Areas,  
127Institutions

2025年4月1日現在  
As of April 1, 2025

## 2. 学術交流協定大学・機関一覧

### (1) 大学間協定：25カ国・地域 83大学・機関

2025年4月1日現在

大学・機関名	国名	協定締結日		協定更新期日	
		一般協定	学生交流の実施に関する覚書	一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1 江蘇大学	中国	1986年01月15日	1995年09月29日	-	自動更新
2 チェンマイ大学	タイ	1989年08月22日	1996年01月31日	自動更新	自動更新
3 タスマニア大学	オーストラリア	1996年04月01日	1996年04月01日	2006年05月10日	自動更新
4 バレンシア工科大学	スペイン	1997年07月04日	1998年01月13日	2026年12月28日	2026年12月28日
5 広西大学	中国	1999年02月22日 (1995年04月21日：生物)	2002年03月19日 (1995年12月19日：生物)	2022年12月18日	自動更新
6 カセサート大学	タイ	1999年12月23日	2000年07月24日	2030年02月13日	自動更新
7 コンケン大学	タイ	2000年07月17日 (1994年08月25日：医学)	2000年07月17日	2030年05月15日	2030年05月15日
8 フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン=ニュルンベルク	ドイツ	2001年03月16日	2005年02月20日	自動更新	自動更新
9 東国大学校	韓国	2002年12月16日	2004年03月24日	自動更新	自動更新
10 梨花女子大学校	韓国	2002年12月17日	2004年03月23日	自動更新	自動更新
11 西安理工大学	中国	2003年08月28日	2003年08月28日	自動更新	自動更新
12 スラナリー工科大学	タイ	2003年10月18日 (2000年09月08日：生物)	2003年10月18日	2026年04月01日	自動更新
13 バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2004年03月15日	2004年03月15日	2027年02月27日	自動更新
14 天津師範大学	中国	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)	2027年12月27日	自動更新
15 ノースカロライナ大学ウィルミントン校	米国	2005年12月21日	2005年12月21日	2026年11月30日	2026年11月30日
16 江南大学	中国	2006年02月13日 (1998年03月30日：生物)	2006年02月13日 (2001年02月13日：生物)	2027年09月08日	自動更新
17 IPB大学	インドネシア	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)	2028年07月27日	自動更新
18 スリウィジャヤ大学	インドネシア	2007年11月06日	2007年11月06日	2029年05月30日	自動更新
19 タマサート大学	タイ	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)	2030年02月24日	2030年02月24日
20 南京工業大学	中国	2008年07月07日	2008年07月07日	2024年12月19日	自動更新
21 ハイデルベルク大学	ドイツ	-	2008年12月12日	-	自動更新
22 河南師範大学	中国	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)	2025年08月17日	自動更新
23 世宗大学校	韓国	2009年02月10日	2009年02月10日	2028年01月23日	自動更新
24 メージョー大学	タイ	2009年03月31日	2009年03月31日	2026年03月24日	自動更新
25 外国貿易大学	ベトナム	2009年05月26日	2009年05月26日	2027年10月17日	自動更新
26 ホーチミン市師範大学	ベトナム	2009年07月28日	2009年07月28日	2030年06月09日	自動更新
27 上海海洋大学	中国	2009年09月24日 (1995年10月16日：生物)	2009年09月24日 (1996年10月24日：生物)	2027年06月12日	自動更新
28 タシケント国立法科大学	ウズベキスタン	2010年03月22日	2010年03月22日	2026年05月31日	自動更新
29 内蒙古工業大学	中国	2010年03月31日 (2000年03月08日：工学)	2010年03月31日 (2000年11月13日：工学)	2030年03月17日	自動更新
30 ハルオレオ大学	インドネシア	2010年07月23日	2010年07月23日	2020年11月04日	自動更新
31 ハワイパシフィック大学	米国	2010年09月13日	2024年02月08日	2029年02月07日	2029年02月07日
32 シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)	2015年10月03日	自動更新
33 延辺大学	中国	2010年10月15日	2010年10月15日	2029年04月15日	自動更新
34 サボア・モンブラン大学	フランス	2010年11月04日	2010年11月04日	2029年06月27日	2029年06月27日
35 ルール大学ボーフム	ドイツ	2011年03月28日	2011年03月28日	自動更新	自動更新
36 ジャウメ1世大学	スペイン	2011年04月14日	2011年04月14日	2028年08月08日	2028年08月08日
37 カーディフ大学	英国	2011年07月15日	2011年07月15日	2027年02月09日	2021年07月25日
38 安徽農業大学	中国	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)	2027年06月12日	自動更新

大学・機関名	国名	協定締結日		協定更新期日	
		一般協定	学生交流の実施に関する覚書	一般協定	学生交流の実施に関する覚書
39 ライプツヒ大学	ドイツ	-	2012年02月02日	-	自動更新
40 バジャジャラン大学	インドネシア	2012年02月24日	2012年02月24日	2028年05月16日	自動更新
41 タチ大学	マレーシア	2012年05月24日 (2010年08月02日：工学)	2012年05月24日 (2010年08月02日：工学)	2028年02月01日	自動更新
42 プトラマレーシア大学	マレーシア	2006年09月19日	2012年08月08日	2024年10月31日	2024年10月31日
43 雲南大学	中国	2012年08月20日	2012年12月25日	2027年08月31日	自動更新
44 北京外国語大学	中国	2012年09月17日 (2012年03月23日：人文)	2012年09月17日 (2012年03月23日：人文)	2017年09月16日	自動更新
45 セントラル・ランカシャー大学	英国	2013年04月19日	2013年04月19日	2028年12月05日	2028年12月05日
46 国立高雄師範大学	台湾	2013年06月18日	2013年06月24日	2027年08月31日	自動更新
47 国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー	2013年08月23日	2013年08月23日	2029年07月04日	2029年07月04日
48 フィジー国立大学	フィジー	2014年05月05日	2014年05月05日	自動更新	自動更新
49 南太平洋大学	フィジー	2014年05月06日	2014年05月06日	2019年05月05日	自動更新
50 カントー大学	ベトナム	2014年09月12日	2014年09月12日	2026年12月26日	自動更新
51 国立中山大学	台湾	2014年11月04日	2014年11月04日	自動更新	2026年10月25日
52 ザンビア大学	ザンビア	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)	自動更新	自動更新
53 国立金門大学	台湾	2015年06月23日	2015年06月23日	2026年10月04日	2026年10月03日
54 サンパウロ大学	ブラジル	2015年07月07日 (2011年 05月16日：人文)	2015年07月07日	2026年06月23日	2026年06月23日
55 南台科技大学	台湾	2015年08月28日 (2014年11月14日：イノベ)	2015年08月28日 (2014年11月14日：イノベ)	自動更新	自動更新
56 済州大学	韓国	2015年09月14日	2015年09月14日	2026年10月19日	自動更新
57 ソフィア大学	ブルガリア	2016年09月19日	2016年09月19日	2026年11月09日	自動更新
58 王立ブノンベン大学	カンボジア	2017年01月18日	2017年01月18日	2028年10月08日	2028年10月08日
59 国立台湾海洋大学	台湾	2019年01月03日	2019年01月03日	2024年07月13日	自動更新
60 サンカルロス大学	フィリピン	2019年08月16日	2019年11月25日	2024年08月15日	自動更新
61 中央大学校	韓国	2019年10月14日	2019年10月14日	2024年10月13日	自動更新
62 真理大学	台湾	2020年01月14日 (2014年10月21日：イノベ)	2020年01月14日 (2014年10月21日：イノベ)	自動更新	自動更新
63 マレーシアトレンガヌ大学	マレーシア	2020年07月30日 (2017年11月28日：生物)	2020年07月30日 (2017年11月28日：生物)	2030年07月19日	2030年07月19日
64 啓明大学校	韓国	2021年08月12日	2021年08月12日	2026年08月11日	自動更新
65 鄭州大学	中国	2021年11月04日	-	2026年11月03日	-
66 セントラルソン大学	フィリピン	2022年10月26日 (2018年08月01日：生物)	2022年10月26日 (2018年08月01日：生物)	2027年10月25日	自動更新
67 国立ワイト大学	ニュージーランド	2023年01月31日	-	2028年01月30日	-
68 華東政法大学	中国	2023年11月28日	2023年11月28日	2028年11月27日	自動更新
69 大邱教育大学校	韓国	2024年02月07日	-	2029年02月06日	-
70 インドネシア国立研究革新庁 (BRIN)	インドネシア	2023年12月06日	-	2028年12月05日	-
71 中国国家留学基金管理委員会	中国	2023年08月24日	-	2026年08月23日	-
72 上海外国語大学	中国	2024年02月26日	2024年02月26日	2029年02月25日	自動更新
73 吉林農業大学	中国	2023年11月28日	2023年11月28日	2028年11月27日	自動更新
74 文藻外国語大学	台湾	2024年06月07日 (2022年07月19日：教育)	2024年06月07日 (2022年07月19日：教育)	2029年6月6日	自動更新
75 釜慶国立大学校	韓国	2024年05月20日 (1995年09月22日：生物)	2024年05月20日 (2013年02月06日：生物)	2029年5月19日	自動更新
76 ムーレイ・イスマイル大学	モロッコ	2024年6月1日	-	2029年5月31日	-
77 マレーシアバハン大学	マレーシア	2024年6月25日	-	2029年06月24日	-
78 国立宜蘭大学	台湾	2024年6月25日	2024年6月25日	2029年6月24日	自動更新
79 南京林業大学	中国	2024年9月9日	2024年9月9日	2029年09月08日	自動更新
80 南京農業大学	中国	2024年7月12日	2024年7月12日	2029年7月11日	自動更新
81 ベトナム国家大学ホーチミン校人文・社会科学	ベトナム	2024年7月25日	2024年7月25日	2029年7月24日	自動更新
82 スエヴァ・ヴィスカヤ大学	フィリピン	2024年12月13日	2024年12月13日	2029年12月12日	自動更新
83 ブラパー大学	タイ	2025年1月28日	2024年10月26日	2030年1月27日	2029年10月25日

## V. 資料

### (2) 部局間協定：24カ国・地域 44大学・機関

2025年4月1日現在

	大学・機関名	国名	協定締結日		協定更新期日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書	一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1	シェフィールド大学英語教育センター	英国	2015年09月10日	-	自動更新	-
2	リール大学	フランス	1989年11月01日	2013年03月15日	自動更新	自動更新
3	リヨン政治学院（リヨン第2大学）	フランス	2002年01月21日	2005年10月17日	2007年01月20日	自動更新
4	南開大学日本研究院	中国	2010年01月22日	2013年03月18日	自動更新	2029年12月25日
5	ルンド大学人文・神学学部	スウェーデン	2016年03月18日	2011年03月18日	2021年01月07日	2026年01月17日
6	オークランド大学教育・社会福祉学部	ニュージーランド	2013年08月14日	-	2027年06月30日	-
7	北京理工大学外国語学院	中国	2015年11月16日	-	2024年09月13日	-
8	上海交通大学医学院	中国	2004年08月11日	2009年12月01日	自動更新	自動更新
9	広西医科大学	中国	2006年06月06日	2020年09月01日	自動更新	自動更新
10	ムヒンビリ健康科学大学医学部	タンザニア	2007年10月19日	2007年10月19日	自動更新	自動更新
11	ガーナ大学医学部	ガーナ	2010年02月18日	2010年02月18日	自動更新	自動更新
12	ペルージャ大学医学部	イタリア	2010年02月22日	2010年02月22日	2025年10月26日	2025年10月26日
13	蘭州大学第二臨床医学院	中国	2011年03月17日	2011年03月17日	自動更新	自動更新
14	ラオス健康科学大学	ラオス	2011年09月26日	2011年09月26日	自動更新	自動更新
15	アマリタ大学医学部	インド	2012年01月30日	2012年01月30日	自動更新	自動更新
16	ヤンゴン第一医科大学	ミャンマー	2012年12月17日	-	自動更新	-
17	フリンダース大学医学部	オーストラリア	2014年02月27日	2014年02月27日	自動更新	自動更新
18	フライブルク・カトリック応用科学大学	ドイツ	2014年06月11日	2014年06月11日	自動更新	自動更新
19	ワシントン大学医学部	米国	2014年08月25日	-	2027年09月14日	-
20	マンダレー医科大学	ミャンマー	2014年11月04日	-	自動更新	-
21	フィリピン大学マニラ保健学部	フィリピン	2015年07月23日	-	2018年07月22日	-
22	ヤンゴン第二医科大学	ミャンマー	2015年10月21日	-	2020年10月20日	-
23	バンガバンドゥシャイクムジブ医科大学 (BSMMU)	バングラデシュ	2015年07月27日	-	2020年07月26日	-
24	ベルゲン大学医歯学部	ノルウェー	2016年01月21日	-	自動更新	-
25	メッシーナ大学医学部	イタリア	2019年10月23日	2019年10月23日	2024年10月22日	2024年10月22日
26	清華大学工学部・工程力学学部	中国	1995年10月01日	1995年11月01日	2026年09月29日	自動更新
27	モンクット王ラカバン工科大学工学部	タイ	2005年09月05日	2005年09月05日	2026年03月23日	自動更新
28	浙江大学理学部	中国	2009年03月28日	2009年03月28日	2025年09月07日	自動更新
29	アールゼメティエ (ENSAM)	フランス	2009年08月31日	2009年08月31日	2026年10月26日	自動更新
30	パドヴァ大学マネジメント工学部	イタリア	2014年02月17日	2016年09月19日	2027年05月05日	自動更新
31	ベトナム科学技術院 (VAST) エネルギー科学研究所 (IES)	ベトナム	2014年09月30日	2014年09月30日	2025年06月04日	自動更新
32	ロイトリンゲン大学工学部	ドイツ	2015年03月04日	2020年04月29日	2020年03月03日	自動更新
33	ガジャ・マダ大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年01月31日	2019年01月31日	2029年03月25日	2029年03月25日
34	バンドン工科大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年02月19日	2019年02月19日	2029年03月04日	-
35	国立成功大学化学工学学科	台湾	2019年04月12日	2019年04月12日	2024年04月11日	自動更新
36	マレーシアペルリス大学	マレーシア	2021年12月27日	2021年12月27日	2026年12月26日	2026年12月26日
37	ブルネイ工科大学	ブルネイ	2024年09月21日	2024年09月21日	2029年09月20日	自動更新
38	モンクット王トンブリ工科大学 生物資源学研究所	タイ	2009年10月20日	2009年10月20日	2022年01月03日	自動更新
39	ゲント大学生物科学工学部	ベルギー	2015年03月09日	2015年03月09日	2020年03月08日	2020年03月08日
40	パティン大学大学院農業科学・海洋科学研究所	ミャンマー	2016年12月04日	-	2021年12月03日	-
41	ムラワルマン大学森林学部	インドネシア	2023年06月14日	-	2028年06月13日	-
42	メリーランド大学イースタンショア校	米国	2024年03月12日	2024年03月12日	2029年03月11日	自動更新
43	東ワシントン大学経営・行政学部	米国	2017年10月04日	-	自動更新	-

## 3. 2024年度 国籍別・学部別外国人留学生数

## (1) 2024年度 国籍別留学生数

	総数	(女子)
31ヶ国・地域	263	(122)

2024年11月1日現在

国・地域名	【学部】		【大学院】		【国際交流センター】	計	
	正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生		
アジア	中国	9 (3)	24 (18)	53 (23)	12 (7)	10 (5)	108 (56)
	インドネシア		2 (1)	20 (6)		1 (0)	23 (7)
	ベトナム	8 (0)	1 (1)	2 (1)		11 (10)	22 (12)
	韓国	13 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (1)	21 (8)
	マレーシア	2 (0)	3 (0)	6 (4)			11 (4)
	台湾		3 (3)		4 (2)	2 (2)	9 (7)
	タイ		1 (0)	5 (3)	1 (1)		7 (4)
	バングラデシュ			6 (2)			6 (2)
	フィリピン			6 (3)			6 (3)
	カンボジア	2 (0)	2 (2)	1 (1)			5 (3)
	ミャンマー			1 (1)			1 (1)
	ネパール			1 (1)			1 (1)
スリランカ		1 (1)				1 (1)	
アフリカ	ザンビア			6 (2)			6 (2)
	エジプト			3 (1)			3 (1)
	ガーナ			2 (0)			2 (0)
	アルジェリア			1 (0)			1 (0)
	コンゴ				1 (0)		1 (0)
	ケニア			1 (1)			1 (1)
	モロッコ		1 (0)				1 (0)
タンザニア			1 (0)			1 (0)	
ヨーロッパ	ドイツ		8 (6)			2 (0)	10 (6)
	フランス		3 (1)		2 (0)	1 (1)	6 (2)
	ブルガリア			1 (0)		1 (0)	2 (0)
	イギリス		1 (0)	1 (1)			2 (1)
	ペラルーシ					1 (0)	1 (0)
	イタリア					1 (0)	1 (0)
スウェーデン		1 (0)				1 (0)	
中東	シリア			1 (0)			1 (0)
中南米	メキシコ			1 (0)			1 (0)
オセアニア	ソロモン諸島			1 (0)			1 (0)
合計		34 (7)	52 (34)	121 (51)	21 (11)	35 (19)	263 (122)
		86 (41)		142 (62)		35 (19)	

( ) は、内数で女子学生数を示す。

正規生	非正規生
155 (58)	108 (64)

## V. 資料

### (2) 学部・研究科等別 留学生数

2024年5月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部・人文社会科学研究科	10 (3)	38 (24)	13 (4)	8 (7)			69 (38)
教育学部・教育学研究科	0 (0)	5 (3)	0 (0)	0 (0)			5 (3)
医学部・医学系研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (9)	4 (3)	21 (12)
工学部・工学研究科	22 (3)	10 (4)	8 (4)	2 (1)	26 (11)	0 (0)	68 (23)
生物資源学部・生物資源学研究科	2 (1)	3 (2)	17 (7)	6 (3)	22 (6)	1 (1)	51 (20)
地域イノベーション学研究科			4 (4)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	8 (6)
国際交流センター		19 (15)		0 (0)		0 (0)	19 (15)
計	34 (7)	75 (48)	42 (19)	16 (11)	69 (28)	5 (4)	241 (117)

( ) は、内数で女子学生数を示す。

## 4. 三重大学生の海外派遣

2024年度の三重大学における海外派遣数は、計224名であった。そのうち(1)交換留学による半年～1年の長期派遣の20名、(2)トビタテ！留学JAPANによる派遣が1名、(3)三重大学が提供する海外研修プログラム等による短期派遣が169名、(4)三重大学学生海外チャレンジ応援事業による渡航が29名、(5)その他、国際学会への参加による派遣が5名であった。交換留学による派遣、海外短期派遣・オンライン実施プログラム、学生海外チャレンジ応援事業の実績は次のとおり。

### (1) 交換留学による派遣

#### 現地への派遣

部 局	国・地域名	大 学 名	人数
人文学部	ドイツ	ハイデルベルク大学	3
	マレーシア	ブトラマレーシア大学	2
	イギリス	セントラル・ランカシャー大学	1
	フランス	リール大学	1
	韓国	東国大学校	1
教育学部	イギリス	セントラルランカシャー大学	1
	アメリカ	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	1
	フランス	サボア・モンブラン大学	1
工学部・工学研究科	ドイツ	ハイデルベルク大学	4
	ドイツ	ルール大学ボーフム	1
	イギリス	セントラル・ランカシャー大学	1
生物資源学部	オーストラリア	タスマニア大学	1
	タイ	カセサート大学	1
	イギリス	セントラル・ランカシャー大学	1
合 計			20

### (2) トビタテ！留学JAPANによる派遣

#### 現地への派遣

部 局	国・地域名	大 学 名	人数
工学研究科	ドイツ	ハイデルベルク大学	1

## (3) 海外短期派遣・オンライン実施プログラム (部局別)

プログラム名	交流大学・機関・企業等	国・地域名	派遣期間	参加学生数
<b>全学対象プログラム</b>				
第30回国際ジョイントセミナー&シンポジウム	江蘇大学	中国	1週間	11
ワイカト大学夏期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	3週間	2
ワイカト大学夏期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	5週間	2
ワイカト大学春期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	3週間	4
ワイカト大学春期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	5週間	3
タチ大学夏期英語研修	タチ大学	マレーシア	3週間	20
タチ大学春期英語研修	タチ大学	マレーシア	4週間	12
サウスカロライナ大学夏期語学研修	サウスカロライナ大学	アメリカ	6週間	1
ベトナム・フィールドスタディ	ホーチミン市師範大学	ベトナム	5日間	12
釜慶大学サマープログラム	釜慶大学	中国	8日間	5
南台科技大学マングリン台湾語サマーキャンプ	南台科技大学	台湾	14日間	1
<b>全学対象プログラム 計</b>				<b>73</b>
<b>全学共通教育センター</b>				
国際理解実践1	シェフィールド大学	英国	25日間	16
<b>全学共通教育センター 計</b>				<b>16</b>
<b>人文学部</b>				
スリランカ短期研修プログラム	サバラガムワ大学他	スリランカ	10日間	5
<b>人文学部 計</b>				<b>5</b>
<b>教育学部</b>				
海外教育実地研究B	文藻外国語大学	台湾	4日間	5
オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修	オークランド大学	ニュージーランド	14日間	12
<b>教育学部 計</b>				<b>17</b>
<b>医学系研究科・医学部</b>				
海外臨床実習	ワシントン大学	アメリカ	3週間	3
海外臨床実習	ピッツバーグ大学	アメリカ	3週間	1
海外臨床実習	ペルージャ大学	イタリア	5週間	7
海外臨床実習	コンケン大学・ラオス健康科学大学	タイ・ラオス	5週間	2
海外臨床実習	ザンビア大学	ザンビア	5週間	6
海外臨床実習	カーディフ大学	英国	5週間	2
海外臨床実習	タマサート大学	タイ	5週間	4
海外臨床実習	ムヒンビリ健康科学大学	タンザニア	5週間	7
海外臨床実習	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	5週間	4
<b>医学科/海外臨床実習 計</b>				<b>36</b>
早期海外体験実習	ワシントン大学	アメリカ	7日間	4
早期海外体験実習	コンケン大学	タイ	8日間	7
看護学科学学生交換事業	フリンダース大学	オーストラリア		1
<b>医学科/早期海外体験実習 計</b>				<b>12</b>
<b>医学部・医学系研究科 計</b>				<b>48</b>
<b>工学研究科・工学部</b>				
海外短期インターンシップ	タイ、フィリピン、ベトナムの日本企業等		8日間	17
海外短期インターンシップ	タイ、フィリピン、ベトナムの日本企業等		10日間	16
<b>工学研究科・工学部 計</b>				<b>33</b>
<b>生物資源学研究科・生物資源学部</b>				
サマースクール	トレンガヌ大学	マレーシア	23日間	29
サマースクール	タマサート大学	タイ	23日間	2
<b>生物資源学研究科・生物資源学部 計</b>				<b>31</b>
<b>総計</b>				<b>223</b>

## V. 資料

### 5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育実績

(2024年4月1日～2025年3月31日)

<人文学部・人文社会科学研究科>

2024年度国際交流実績

[I] 著書・刊行物

- ・久間泰賢 科研ニューズレター（英語版）*Vihāra Project*, vols. 10-11, 「三重大学学術機関リポジトリ研究教育成果コレクション」で2024年度にオンライン公開 (<https://mie-u.repo.nii.ac.jp/>) [基盤研究 (A) 一般, 研究代表者: 久間泰賢, 研究期間: 2022～2025年度, 研究課題番号: 22H00002, 研究課題名: グプタ朝以降のインド仏教における僧院と世俗性]

[II] 講演

- ・山田雄司 “NINJA AND ITS IMAGE IN THE WORLD AND JAPAN” 北マケドニア スコピエ大学人類学研究所 6月17日
- ・山田雄司 “NINJA AND ITS IMAGE IN THE WORLD AND JAPAN” 北マケドニア スコピエ大学人類学研究所 6月18日
- ・山田雄司 “Virtual Image and Real Image of the NINJA” コソボ AABカレッジ 6月20日
- ・山田雄司 「忍者の虚像と実像」 ポーランド ワルシャワ日本国大使館広報文化センター 6月24日
- ・山田雄司 「忍者の実像と虚像」ベルギー ルーヴェン大学 3月5日
- ・山田雄司 「忍者の実像と虚像」ルーマニア ルーマニア・アメリカ大学 3月8日
- ・山田雄司 「怨霊とは何か」 ブルガリア ソフィア大学 3月27日
- ・山田雄司・川上仁一 忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション 2025 (ブルガリア) ブルガリア ソフィア大学 3月28日
- ・山田雄司・川上仁一 忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション 2025 (ブルガリア) ブルガリア ブルガス 3月30日

[III] 科研による国際会議・国際ワークショップ

- ・久間泰賢 国際ワークショップ: Khotanese Buddhism and Secularity (2024年10月8日: 京都大学文学部)
- ・久間泰賢 国際会議: Monastic Institutions and Secularity from the Gupta Period to the 15th Century (2024年12月13日～14日: ビハール博物館)
- ・久間泰賢, 国際ワークショップ: Buddhist Heavens as Described in a Persian History from Ilkhanate Iran (2025年3月7日: オンライン開催)

※ 上記の成果はいずれも科研費 [基盤研究 (A) 一般, 研究代表者: 久間泰賢, 研究期間: 2022～2025年度, 研究課題番号: 22H00002, 研究課題名: グプタ朝以降のインド仏教における僧院と世俗性] によるもの。

[IV] 国際ワークショップ・研究会

- ・白石将人「北朝字学与『字統』」, 兩岸經学課程与經学教育国際学術研究会 2024年6月1日 福建師範大學, 招待あり
- ・白石将人「章学誠之小学」, 第五回早期中国經典研究学術シンポジウム 2024年12月23日 北京師範大学珠海校区, 招待あり, ZOOM参加

## &lt;工学部・工学研究科&gt;

1. "Visible Light-Driven Photocatalytic CH<sub>4</sub> Production from an Acetic Acid Solution with Cetyltrimethylammonium Bromide-Assisted ZnIn<sub>2</sub>S<sub>4</sub>." M. Uzzaman, M.F. Afrin, M. Furukawa, I. Tateishi, H. Katsumata, S Kaneco, *ChemEngineering*, **8**, 75 (2024).
2. "A Graphitic Carbon Nitride Photocatalyst with a Benzene-Ring-Modified Isotype Heterojunction for Visible-Light-Driven Hydrogen Production." M. Uzzaman, M. H. Suhag, H. Katsumata, I. Tateishi, M. Furukawa, S. Kaneco, *Catal. Sci. Technol.*, **14**, 267-278 (2024).
3. "Purification of Aqueous Orange II Solution through Adsorption and Visible-Light-Induced Photodegradation using ZnO-Modified g-C<sub>3</sub>N<sub>4</sub> Composites." M. H. Suhag, A. Khatun, I. Tateishi, M. Furukawa, H. Katsumata, S. Kaneco, *RSC Adv.*, **14**, 17888–17900 (2024) . [Royal Society of Chemistry]

## &lt;生物資源学研究科・生物資源学部&gt;

- T. Mizuno, D Kondo, H Kasai, K Kuwabara, J Yamashita, Y Murai, A van der Ent, A Hashimoto, T Watanabe Concentrations and inter-element correlations of seven essential elements in wild plants of Japan. *Ecological Research*,39, 941-956, 2024.
- T. Mizuno, D Kondo, H Kasai , J Yamashita, T Ito, Y Murai, A van der Ent, A Hashimoto, T Watanabe. Effects of soil and phylogeny on sulfur and phosphorus concentrations in wild plants on volcanic and non-volcanic soils in Japan. *Soil Science and Plant Nutrition*, 70, 424-434, 2024.
- M. Kojima, K. Tobioka, M. Okazaki, K. Yokota, D.A. Anggorowati, H. Nakatani, K. Hori, Y. Tamaru, F. Okazaki. Complete genome sequence of *Flavobacterium* sp. strain CFS9, a potential fish probiotic isolated from the body surface of *Silurus asotus*. *Microbiol. Resour. Announc.* Vol. 13. e00563-24. 2024.
- M. Kojima, K. Tobioka, M. Okazaki, K. Yokota, D.A. Anggorowati, H. Nakatani, K. Hori, Y. Tamaru, F. Okazaki. Complete genome sequence of *Chryseobacterium* sp. strain KCF3-3, isolated from the body surface of channel catfish, *Ictalurus punctatus*. *Microbiol. Resour. Announc.* Vol. 14. e01058-24. 2025.
- P.L.D. Canare, R.J. Uy, S. Konishi, H. Tonami, D.G. Alvindia, C. Nakashima. Development of Loop-Mediated Isothermal Amplification (LAMP) Kit for the Detection of *Fusarium Wilt* Using SIX8 Genes. *Journal of Phytopathology.* vol. 172. no. 5. p. e13398. 2024.
- J.Z. Groenewald, Y.Y. Chen, Y. Zhang, J. Roux, H.D. Shin, R.G. Shivas, B.A. Summerell, U. Braun, A.C. Alfenas, A.H. Ujat, C. Nakashima, P.W. Crous. Species diversity in *Pseudocercospora*. *Fungal Systematics and Evolution.* vol. 13. no. 1. p. 29-89. 2024.
- S. Haituk, A. Karunarathna, T. Wongwan, T. Promthep, S. Sittihan, H. A. Ariyawansa, C. Nakashima, R. Cheewangkoon. *Pseudoplagiostoma* Causing Leaf Spot Disease in Key Tropical Fruit Crops in Thailand. *Plants.* vol. 13. no. 23. p. 3379. 2024.
- A.A.A.Shehata, A.O. Owino, M.Y.Islam and Z.Hossain Shear strength of soil by using rice husk ash waste for sustainable ground improvement, *Discover Sustainability*, 10 April 2024.
- M. Y.Islam and Z.Hossain Investigating the one-dimensional consolidation properties of river sludge enhanced by sustainable additive synergy for eco-friendly stabilization, *Journal of Building Engineering*, 16 Jan. 2025.
- Z. Hossain, H.Suksun, M.Hoy and Veena P. Geotechnique, *Construction Materials and Environment*, The Geomate International Society, 13 Nov. 2024, pp.1-746. ISBN: : 978-4-909106-11-7 C3051
- A. Sahidin, G. Muhammad\*, Z.Hasan, M. C. W. Arief, H.Herawati & A.Komaru. Reproduction in the tropical invasive freshwater mussel/*Sinanodonta pacifica*/ (Unionidae) , at different elevations in West Java, Indonesia.\*/*Freshwater Biology*/\*69:1144-1156, 2024.
- T. Aisea, G. Muhammad, A.Sahidin, A.Komaru.\*Influence of geographical origin and shell positions on nacre color and thickness in mabé pearl oysters/*Pteria penguin*/.\*/*Aquaculture*\*/587:740877, 2024.
- F. Ogawa, , S. Minobe, M., J., Roberts, R. Haarsma, D. Putrasahan, E. Scoccimarro, L. Terray, and P. L. Vidale. Cause of the Recent Tendency of Tropical Cyclones Approaching Coasts as Revealed by HighResMIP-PRIMAVERA Simulations, *Journal of Climate*, vol. 38, p.1351-1364, 2025.
- K. Shevkani, N. Singh, N. Kaur, N. Isono, T. Noda. Characterization of Starch Properties in Diverse Pea Accessions: Structural, Morphological, Thermal, Pasting, and Retrogradation Analysis. *Starch-Stärke* Vol. 76 2300174. 2024.

## V. 資料

Y. Yoshihara, C.Tanaka, B. Chojilsuren, J.Tserendorj, B.Byambajav, K.Umemura, M. Shinoda. Seasonal and Annual Rainfall Patterns Modify Summer Energy Balance and Nutritional Condition of Grazing Sheep Via Vegetation Communities. \*Rangel. Ecol. Manage.\*, \*95\*, 77-83. 2024.

<国際交流センター>

論文

正路真一（2025）「2024年度後期日本人チューター学生調査報告」『三重大学国際交流センター紀要』第20号. 49-63.

学会発表

正路真一・森千加香（2025）「ZOOMによる日米会話練習：日本人学生からの印象」Southeaster Association of Teachers of Japanese (SEATJ) . University of North Carolina, Chapel Hill, NC, USA. March 2025.

## 6. 歴代国際交流センター長 一覧

	国際交流センター長
2005年度	亀岡孝治
2006年度	亀岡孝治
2007年度	小林英雄
2008年度	小林英雄
2009年度	松岡守
2010年度	松岡守
2011年度	朴恵淑
2012年度	朴恵淑
2013年度	堀浩樹
2014年度	堀浩樹
2015年度	堀浩樹
2016年度	堀浩樹
2017年度	堀浩樹
2018年度	堀浩樹
2019年度	吉松隆夫
2020年度	吉松隆夫
2021年度	金子聡
2022年度	金子聡
2023年度	金子聡
2024年度	金子聡
2025年度	金子聡

※ 2025年度より、国際戦略機構長に名称変更